愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ケ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無郵送料
廣告料一行六拾錢
本誌全部禁轉載
發行所　東京麹町區（牛ケ淵公園）愛國婦人發行所
編輯兼發行人　山澤俊夫
印刷人　手島益雄

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

社説

習慣の妙用

入るに侍女あり、出づるに馬車ありて、何不自由なく暮らせる者を見ては、一日なりと斯る暮らしが仕て見たしと思はんも、さて實際其身となりたらんには、當分こそは面白けれ、其生活が常となりては、侍女も馬車も當り前にて一向難有からず、傍で見て居るほどにはなきものなり、之に反し日中は車の後押をなし、歸りては九尺二間に夕日に照りつけられ、子を負ふて釜の下を吹く身は、さぞつらかるべしと考へらるゝも、それも始めの程にて、慣るれば其間にも面白き所ありて、想像ほどに苦しくはなきものなり。これは詰まりは習慣といふ天然の妙用が、貴賤貧富の人爲の結果を和らげて、苦樂を平均ならしむるに由るものなり。之に反し富貴なるものは何時までも樂しみ、貧賤なるものは何時までも苦しからんには、さらでも生じ易き人間の不平等は、一層甚しくなりて、社會の維持も六ケ敷からんも、そこは習慣の妙用、樂しかりし生活も慣るれば平氣となり、苦しかりし生活も慣るれば苦しくなくなりて、皆人それ〳〵に立つて行けるなり。習慣が、驕る者の面白味を減ずるは自然の制裁にして、習慣が苦しむ者の苦を減ずるは、自然の憐れみと言はゞ言ふべし、食前方丈の珍味も、毎日にては甘くなくなるが故に、粗食者も羨むに及ばず、常に美服を纏へる者は、美服とて嬉しくも思はねば、粗服の者も我慢が出來るなるべし。別莊に暑を避け居るは、結構なるが如きも、長く居らば景色も鼻につきて一向好かず、却て猫の額ほどの己が庭に、煙霞の趣を見出すことあり。乞食となりし初日の苦みが、毎日續かば、一月と命は持てまじきも、一日は一日と、其境遇に慣れて、苦みも苦みと感ぜず、三日乞食をすれば止められぬといふもあながち負け惜みにもあらざるべく、金殿玉樓も、住み習へば田舍茅屋と撰む所なかるべし。監獄すらも十數年居らば、其所が好くなりて、出さるゝ時生涯こゝに置いてくれと言ふものもあり。骨董家が珍品を見附けて、手に入るまでは落付かず、いよ〳〵購ひ歸りて床に飾りたる二三日は面白きも、暫くすると厭になりて、買ふた氣が知れず、人にやりたくなることあり、乃ち骨董を弄するの餘裕なきものは、博物館等の藏品を我が物なりと思ふて、見に行かば、品も良く數も多くて、遙かに樂しきにあらずや。尚ほ斯る例を擧ぐれば幾許にてもあるべし、要するに習慣といふ天然の妙用ありて、富貴の生活も人目ほどに樂しきものにあらず、貧賤の生活も案ずるが如く苦しきものにあらざるを覺りて、何人も自慢せず、又屈託せず、名々其境遇に安心を求め、敢て自ら信ずる所を行ひて、我れある生活をなさゞるべからず。

精神の修養

佛國の哲人シャンフォールは、其靜思錄中に記して曰く、品性なき者は人にあらずして物品なりと。人と生れて物品に終る、これ終天の遺憾にあらずや。珠を取り、硝子の壞れを求むる、人間たるに差間なし、然れどもこの品性なき、人間たるに差間あり、品性なくんば要するに人間なきなり。富貴は品性の代用をなさず、貧賤も品性を累はすに足らず、品性は絶對的なり、これありて初めて人間あり、人間たるに於て何等の輕重あらんや。求むべきは品性なる哉、一國の誇りとする所のものは多々あるべし、風景の美、天然の富、實業の盛、軍備の強、皆其誇りたらざるはなし、然れども國家最後の誇は、國民の品性にあり、今や我國戰勝の後を受け、國民の元氣自信は頓みに加はり、萬般の事業大に振興せんとするに際し、獨り國民の品性に關する大問題は等閑に附せられ、教育は唯形式の完全を求めて、其精神を問はず、男女學生の風儀言動の如き、顰蹙に堪へざるものあり、學生のみならず、紳士淑女として社會に立てるものも、其衣服、裝飾、頭髮鬚髯こそは麗しけれ、其品性の下劣なる、沐猴冠せると一般なるもの尠なからず、これ尚巍然として雲を摩するの大樹、蟲の内部を侵食しつゝあるを知らずして、獨り其外形の莊嚴を誇れるが如きのみ。今にして此れが内患を勦絶せずんば、其他日の禍害實に測るべからざるものあらん、由來婦人は道義の維持者たり、風俗の洗淨者たる者、歷史は之を證す、今日の婦人たる者は宜しく此滔々たる墮落の風潮に反抗して、國民の堅固優良なる品性を作出することに努めざるべからず、婦人は子に對しては母たり、夫に對しては妻たるもの、其影響の偉大なる何者も能く之に及ぶものなし、愛國婦人會は我國最大の婦人團體なり、其會員五十萬の義軍を以て、天下風教の事に當る、燎火の廣原を燬くが如く、翕然として天下を風靡する蓋し難きにあらざるべし、其方法は他にあらず、會員自ら精神を高尚にし、品性を研成して、範を他に垂れ、感化を他に與ふるにあり、會員たるもの努めざるべけんや。

夏

天然は夏に於て其活動の絶頂に達す、草木は鬱蒼として繁茂し、動物は子を生み、穴居の蟲類も這ひ出して、鳴くものは鳴き、飛ぶものは飛ぶ、夏は萬物總出の賑かなる幕なり、獨り人間は暑に當てられ、意氣銷沈して、海岸又は山間に逃げ若しくは逃げんことを欲す、然れども夏には夏の趣きあり、もし年中春のみ或は秋のみならんには、天然の景物は單調にして倦厭を來すべし、幸に夏の如き熱狂、旺盛、喧噪、繁華ありて、一年を賑はし、活動の教訓を人に示す。夏は樂しむべく味ふべきものなり、厭ひ逃くべきものにあらず、雷の鳴りはためく、驟雨の過ぎ行く、紅雲の層々として綿の如く、山の如き、夕照の飽くまで赤くして西大陸一面の火事を見るが如き、何處まで思ひ切りて心地よきものぞ、人間の氣象は夏の如くありたきものなり。又夏の晨の如く寂寥を感ずるものはなし、他の季節ならば、眞晝ともいふべき明るさにて、しかも人一人出て居らざる對照に於て、一段の寂しみは感ぜらるゝなり、夏の喧囂の中に尚此閑靜あり、煩惱の火に心胸を燃やせる者は、早起夏の晨の默示を受けよ。池中の蓮花、朝顏の露何れか自然の教訓ならざる、夏は夜こそよけれ、淡月碧空に懸り、涼風徐ろに到るの頃、團扇片手に檐端に坐す、始めて世界が己れの物となりし心地す、隣りにも團扇の音や夏の月、都大路は夜更くるまで、行客雜踏して、尚宵の如きも、一時二時とならば、流石に世間寂として書を讀み、文を行るによろし、要するは夏は自然の大進行の一齣にして、見方使ひ方如何によりては、無限の收穫を人に與ふるものなり、豈に夫れ夏は暑いものとして、苦情の中に空費すべきものならんや。

募集小說其他

「銷夏號」發刊につき、弊紙の募集に應じて寄せられたる短篇小說其他の寄稿左の如し

短篇小說

鎮守の杜　愛知縣知多郡成岩町九百九十二番戶　榊原りつ子
あかつき　埼玉縣比企郡四吉見村　森田竹子
母の涙　東京市京橋區彌左衞門町十五、田中方　小林健子
紅芙蓉　大阪市北區芝田町九十三番地　加藤いそ子
堅志　山形縣東田川郡新堀村　阿部さゐ子
木蔭の姉妹　長野縣諏訪郡湊川村　丸茂りきの
結婚論　京都市祇園下河原町　花輪余志野
花ちやん　熊本市迎町字川尻口二百二十六　松島とよ子

夏の教訓

福岡　濱中けい子　群馬　伏島たき子
京都　清水いま子　埼玉　森田竹子
熊本　松島とよ子　山形　阿部さゐ子

夏の簡易なる小兒寢衣

靜岡　大高ふみ子　山口　荒瀨千勢子
大阪　富永才子　呉　竹入勇子
長野　高橋きよ子　青森　留目うた子
東京　林浦子　京都　清水いま子

小兒の夏の暮し方

東京　中隈富士子　大阪　富永才子
山形　阿部さゐ子

半ケ年の家計

等にして右は既に夫れ〳〵各選者の許に送りあれば詳密なる選擇を經て其の最も優れたるものは來號の紙上を飾り同時に諸姉の名を飾らんとす

電話番町五百二十番

◎本號には奥村堀内氏二氏送別慰勞宴の寫眞版附錄を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

歐米婦人と日本婦人

醫學博士男爵　高木兼寛

▲體育上の比較　歐米の婦人と日本の婦人との體育上の比較は到底比べものにならぬ、假に双方を列らべて立たせて見たら、日本の婦人は全で小人島の人種を見たやうである、歐米の教育法は先づ體育から始め、既に充分發達したる母は、其身體の保存に就て注意すると同時に、其子弟をして己が發達したる程度より以上にまで引上ぐることを勸めて居る、故に服裝の如きは最も運動に適するやうに作る、本年の米國婦人流行服は袖が肘限りであつて、娘の間は別に飾もなく、只々運動に適するを目的として、起居進退が活潑に出來るやうになつて居る、日本のやうに下駄を履いて轉ばぬことに心を掛け、チョコ〳〵歩きをするやうでは、到底立派な體格を作ることは出來ない、日本でも近頃は婦人の山に登ることが流行して來たやうであるが、外國婦人の山に登るは中々素晴らしいもので、男女共同して登るのである、自分の實見したのは三人の婦人に一人の監督婦人が添ひ、又三人の男子にも一人の監督者が添ふて、都合男女八人連れの登山であるが、男子の方が力が强い丈けに二人分の糧食を負ふて登り、婦人は男子に劣らぬ程の輕裝をして、登ると云ふ風である。

▲德育上の比較　歐米の婦人は子供を善く愛するけれども、常に鞭つことを忘れて居らぬ、少しでも軌道を外れた行ひがあらば、嚴格に矯正せしめて少しも容赦をせぬ、故に子供は上長に對して甚だ服從的精神に富んで居る、隨て獨立的生活を營む上に於いても非常な効果を奏するが、日本では父母の心に一定の軌道がないので善惡に對する標準が立たない、且つ子供を保護することに過ぎて自己の病氣の容體さへ、醫師に向つて表白することの出來ない娘が多い、歐米では男女共學をさしても少しの過失がないが、これは一定の軌道を踏んで居るからである、日本では神に賴るか佛に賴るか、兎に角從來の慣習を標準として居るに過ぎないので、甚だ根據の薄い教育をして居ると思ふ、吾輩の考へでは神も佛も要らぬ、教育勅語の主旨を充分に了解して子を育て上げる父母が必要であると思ふ。

▲智育上の比較　智識の點は尙一層日本婦人の方が劣つて居ると思はれる、歐米婦人の智識を求める方法は非常なものであつて、現に近頃日本に渡來した一婦人の如きは、四人の子を携へて世界を漫遊し、さうして子供等の智識を啓發せしむることに勉めて居る、此一事を以て見ても、到底日本婦人は智育に於ても歐米婦人に及はぬと云ふことが解かる、日本で歐米に勝る處は陸海軍の智識のみで、其他には何一つとして誇るに足るものがない、況んや婦人の智識の如きは最も低くて、外國人との交際の途が開けても、外國人と共に遊ぶ仕方さへ知らぬ爲めに、手を携へて相樂むと云ふことは出來ない、音樂も知らねば舞踏も出來ない、話しも出來ねば歩くことさへ充分に出來ない、それで以て强國の仲間入りをしたと云ふた處で、少しも威張ることは出來ない、故に吾輩は婦人の教育も男子と同等に高等教育を授けて、世界的智識の啓發に勸めることが必要であると考へる。

英國人の氣風

文學博士　内田銀藏

▲親切な國民　英國人は至つて親切なる國民でありますが、初對面の時は甚だ愛想の無いやうに見へます、併し交りを重ぬるに從つて愈々敬慕すべき人であると云ふことを感ずるやうになります、交際は廣く且つ淺くすると云ふよりも、深く且つ長くすると云ふ風であります、故に日本あたりでは、大學の教授なぞでは大概皆懇意になつて、法學博士の人でも醫學博士の人と懇意にすると云ふ風でありますが、英國では同じ系統を引いて居る學者、假令ば文學博士同志でも、顏は知つて居るが交際はしたことが無いと云ふ風で、交際を容易に始めませぬ、併し一度始めると恰も夫れが一の慣例になつた如く、永久に繼續します。

▲然諾を重ず　英人が一度「承知しました」と云ふ其一言は、金鐵よりも重く、遂げなければ止みませぬ、併し其承諾を爲す前に多少の考慮を費し、果して其事が己の力にて成し遂げ得るや否やを熟考したる上で承諾を表する風でありまして、若し其事柄が己の力に及ばぬことであると考へた時は、假令一時は氣の毒な目を見ても、面前に於て斷然否と答へることに少しも躊躇致しませぬ、又既に應じた以上は、必ず之れ履行します、此點はハッキリと線を引いたやうに區別されて居ります。

▲應接の模樣　用談は成る可く簡單に行ひまして、人を訪問するにも手土産を持參したり、前置きに長い話しを續けたりするやうなことはなく、來意を直ちに話して主人も之れに對して應對流るゝが如く、主要なる用事が濟んだならば主人よりも其歸るを促し、客も直ちに歸るのであるが、其歸る時の呼吸が甚だ上手に出來て居て、互に薄情に見へるやうなことがないのであります。

▲茶話の時間　中流以上の家庭では、大概午後四時から五時の間に一家の人々打揃ふて茶を喫するのでありますが、此席には極懇意なる友人なぞを招きまして、互に談話を交換し、愉快なる時となつて居りまして、此時に限つて茶なり菓子なりを出すので、客が來れば必ず菓子や茶を出す日本の風習とは大分違つたところがあるのであります。

▲次は晩餐會　懇意にする友人を宅に招いて晩餐を共にすることがありますが、これも至つて簡單なもので、家内が平生食ふものより以外に特別な御馳走をせず食卓の上には溫かき料理が置かれて、家内一同客と共に食卓に着き、其料理の如きも各々の好みに應じて配布するやうな仕組て、食はない品までも多く取つて供へると云ふ不經濟向きの風でなく、且つ其食卓では互に面白き話しをなし、甚だ樂しいものであります。

▲英國の婦人　英國の娘は能く母の敎へに服從して、其上學問を修めて居りますから、人格が甚だ高尙であります、且つ女子と雖も頗る獨立心に富んで居りまして、己の身仕度一切は自分でするは素よりのこと、旅行なぞをする場合でも、決して人手を煩はす等のことはありません。

歐米の都市は如何に發達しつゝ在るか

石井謹吾

▲都市活動の原因　是は工業革命に基を發して居ると云ふことは、總ての社會問題と少しも變つて居らぬ、前世紀の半ば頃から前々世紀の末に出來た發明を利用することが出來て、大工業が起り、工業革命が起り、工業の都市と云ふものが出來て、都市で爲すべき、仕事の範圍が中々廣くなり、一つ所に澤山の人が集つて來る、現在英米では殆ど四分の三位ゐは都市住ゐてある。

▲都市の仕事　併し人口密集の結果各種の弊害が續發して、現今歐羅巴に於て世の中を改良しやうと云ふことは此點に非常に多い、隨つて都市の仕事は單に經濟的の計畫ばかりではない、市區を改正したり、路を造つたりするばかりでなく、人間の身體及び精神に關する爲めに仕事をやつて居るやうに見える、それを實行する爲めには都市が營利的の仕事もやらなければならぬやうになつて來た、左に市の行ふて居る事務の大要を陳べて見やう

▲保護事務　是れは警察、消防、公衆衛生、酒類の販賣、檢黴等の取締と云ふやうな事務である、其次は

▲敎化事務　これは敎育上の事一切て、其内には宗敎も入れば圖書館、美術館、博物館も入る、尙は之れを別けて二つにして見ると、それから起つて來たのが

▲慈善事務　是れも都市では殆ど一局を爲して、金を使つて熱心にやつて居る、此中には救貧と云ふことが入つて來る、即ち勞働者紹介所や勞働者病院の設備は勿論、進んでは彼等に愉快を與ふる爲に馬鈴薯でも植へるやうな少さな土地を貸してやる、斯う云ふ慈善及び衛生的の仕事が大變である。

▲交通事務　路を開いて經濟の發達を圖るとか、路を淸掃する事、撒水をする事、排除物を處分する事、其他下水業を金を取らないで非常に盛んに行ふて居る、次に養樂事務即ち精神を休養する事務、公園、劇場、音樂合奏、植物、動物、遊技場、公の風呂場と云ふやうな事に金を掛けて居る。

▲商賣的の仕事　都市では只行政權を行使するばかりでない、賣買的の仕事を營むやうになつた、即ち水道、瓦斯事業、電燈、市街鐵道、市有家屋、港灣の修築、渡船、質屋、銀行、保險、電話、料理店、其他近來は牛乳を配達することまで市て行ふ程になつて來ました。

▲社會改良問題　何故に斯樣に大なる都市難が發達して來たかと云ふに、自分が一年三四ヶ月間倫敦に居つて英國の有樣を見るに、社會の改良と云ふことが非常な勢力を有つて來て、或人は二十世紀の問題は蓋し是れに外ならんと斷言して居る、何故と云ふに都市は殆ど國の四分の三ほどを占めて居つて、社會問題は要するに都市にある、田舍には無いのである。

▲矯風的關係　國として世の中の組織の惡いこと、それを矯正するには先づ都市を一の基ゐとして其弊害を防さうとして居る、或る意味から云ふと、他愛主義から出て居る、又政治上からも出て來るか知れぬが、之れには餘程豪ひ努力があるやうに見へる。

▲收利的都市事業　都市が斯くの如き事業を行ふに付ては、自然都市の經費が殖へて來る、故に他に何か財源を求めればならぬので、一の收利事業を行ふて新財源を得やうとして居る、日本でも今日では主なる目的が公益なれば、其事柄は商行爲でも、公共團體で行ふことになつて居る。

▲都市事業の利害　利益の點から云ふと私設は獨占の弊が起て宜しくない、是等は衛生、風俗、秩序等に大なる關係のあるとてあつて、行政の本義から見ても、都市自身が經營する方が宜いやうに見へる、且つ世の中を改良して行く上に利益がある、不利益の點から云へば經濟的の市營は遣り方が役人的で甘くいかぬ、第二は公共團體が危險を冒して事業を經營するのは面白くない等の理由である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

新婚旅行

生田葵山人

「富美さん大分疲足れたらう、何なら其處から電車に乗つてもいゝよ。」

「いゝえ、良人、疲足れるなんて、那麼事少しもありませんよ。」

江の島から鎌倉へと通ふ七里ケ濱の磯際で、婦人は桃色の蝙蝠傘、鼠懸つた色の中柄の透衣を着た拾九歳か廿歳位ゐ、頭髪は流行の束髪で、蝶とも見ゆる白色のリボンを飾つて居る。男は縞のアルパカ地の背廣服、右手に洋杖を突いた姿勢凛々しく、顔は日に焼けて銅色をして居るが、落附いた瞳の色、鼻筋は通つて、口元に犯し難い威を見せて居る。麥藁帽を頂いて居るが年齢は廿七歳をよも越えまい。遠目からも仲睦まじい夫婦と見えるが、近づくと、何處か女が世間に遠慮すると云つた態が見え、男とても何だか恥かしさを感じて居る様な氣分が些い〳〵見えるので、直ぐ新婚の樂しい旅行だと心附かられるのである。

濱は今夕暮て、日は江の島の蔭に隱れ、海の面は橄欖色に美くしく、打寄す浪の音が一種の音樂として聞かれるのである。どゞんと音して打寄せて來ては、さゝ、さゝらと白泡となつて引いて行き、其れが全く引き切らぬ前に續いて又打寄せて來るのを、夫婦は面白いものゝ様に眺めて一歩〳〵鎌倉の方へと進むのであつた。涼しい風は沖の方から絶えず吹いて來て、街道を越えた小立の小松原の中では蜩が鳴いて居る。此の邊は浪が荒いので海水浴をするものも無く、間々貝拾ひの見が珍らしげに夫婦の姿を眺めて行く位ゐてある。

「思出すと一昨年の今日僕は大石橋に居たんだね。あの時は生きて日本に歸れるなんて夢にも思はねば、然うして富美さんと結婚が出來様などゝは思ひも寄らなかつたんだが……。」然も感慨に堪えない様に男は呟くのであつた。

「然うで御座いましやうつて、其りや御皇國の爲めですから御討死遊ばす様になつたつて爲方がないので御座いますが、私はまあ奈何位ゐ心配いたしましたらう。ならうなら私の生命に變へて良人の御無事である様にと、婦人會へ出ていろ〳〵の働きをいたします中にも、神樣や佛樣に御願ひ申さなかつた事は、只の一日も無かつたんですよ。」

「神樣や佛樣は御迷惑だつたらう。兎に角富美さんの其の信心で僕は銃丸に當らなかつたんだらうよ。」

調戯ひ氣味で擲へる折しもあれ。貳人が歩む處と十間ばかり隔たつた磯に、引上げられてある漁舟の蔭に一個白衣の人が突立つて居て、優しい面地で愉快さうに夫婦の態を見て居たが、頻と凝視つて、

「おゝ、山村君ぢやないか?。」

白衣の人は一歩前へ進み出て呼び懸けるのであつた。呼ばれて此方の夫婦は其れと心附いて其方へと顔を向けたが

「おゝ、長谷川君。」　思ひも寄らぬ面會よと云はぬばかり、妻の側を離れて山村は前へと進んだ。

「姿が變つて居るから君だとは些つとも氣が付かなかつた。」　長谷川と云はれた白衣の人はにこやかに云つたが、憐れ彼は右足が無いと見え、右の脇の下に杖を挿ひ込んで居る。

「君が右足を切斷したと云ふ事も聞き、今赤十字病院に居ると聞いて此間病院の方へ見舞狀を出して置いたんだが……。」

貳人は共に高等商業學校の出身で、同じく志願兵で、戰爭の折には少尉で出陣し、同じ聯隊の下に居たのであるが、長谷川は奉天の戰爭に砲彈創を右足に受け、山村より前に歸る樣になつたのである。

「うむ、手紙受取つたよ、有難う、不意に鎌倉へ來るやうになつて一昨日來たんだ。久濶だつたなア、守備隊の方へ廻されたんだつたね。」

「あゝ、其れでも僕は不思儀に傷一つ負はず、先月の初旬に歸つて來たんだ。」

貳人が仲が善い丈けに長谷川は山村の許婚であつた富美子を知つて居るのである。で富美子は羞かしさうに近附いて來て、顔を眞赤にしながら、挨拶をした。

「いや、御目出度う、僕は君達が結婚したのを知つて居る。」　長谷川は笑ましげに云ふ。

「奈何して?。」と不思議の眼を輝かす。

「隱れて結婚しやうとしたつて其りや駄目だ、君病院の軍醫て富美子さんの親戚の人があるだらう。僕はあの人から聞いて、中心から祝して居つた。」

「然うか。別段隱すと云ふんぢやないが、何れ披露は秋と云ふ事で老人連が八かましく云ふもんだからほんの内輪だけで式を擧げて了つたんだ。君許へ通知もせずに濟まなかつた。」

「なあに、那麼氣兼なんか、恁麼事は早い方がいゝんだ。富美子さんも随分苦勞しなすつたんだからね。」　同情ある眼に富美子の方を見た。

「貴方、無御不自由で被入いましやうね。」之も眞に同情に堪えない態で云ふ。

「なあに貴女、大君の爲め國のために捧げたと思へば些つとも惜しくは無く、不自由も感じないです。君今日歸るのか。」

「うむ。大磯で三日ばかり暮らして來たんだから……。」

「もう一日位ゐいゝだらう、ねえ、僕の家で泊つて呉給へ。」

「あゝ、有難う。君の姿を見るに附け僕が呑氣さうに結婚なんかして濟まないやうな氣がするね……。」

「莫伽な事云ひ給ふな、其の言葉は僕を侮辱する様なものだ。滿洲の領土は僕等の流した血汐で保たれて居ると思ふと大滿足なのだ。僕は寧ろ片足の無いのを誇りとして居る位ゐよ。」

元氣よく云ふのであつたが、山村は長谷川がいつに變らず奉公の念に厚いのに感激して一生を通して兄分と立てゝ交際しやうと決心したのであつた。新婚の夫婦は其の夜は山村の家に客となつたのは云ふ迄も無い事だ。(完)

東西名婦傳

了然尼

須藤求馬

今は昔、駿州富士の大宮司葛山何某といふもの、武田信玄の子を養ふて子となし葛山十郎義久と稱し、其子長次郎京都に住み、茶事を好み、古畫の鑑定に長じ、其妻もよく歌をよみて能書の聞えありき、その一女東福門院に宮仕して寄木と呼び、女院崩御の後は宮仕を辭して家に在りしに、和歌詩文を好み、頗る禪味ある女なりしかば、我嫁して子三人生れなば、暇を賜はれとの約束の下に、松田晩翠といふ醫師の妻となり、三十四五の頃までに男女三人の子を生みたれば、良人にしか〳〵の事をいひ、遂に尼となりて了然と號し、黄檗諸禪林に入りて参道ひまなく勤め、後、關東に下りて弘福寺鐵牛和尚に參して、法問の事を乞へども、其容色の美にして艶なる故に、寺門に入ることを聽されず、それより木庵禪師の弟子白翁和尚の、駒込の庵に在るを聞きて尋ね往きて、法問の事を願ふに、白翁もまた美色にして先容儀を整ふる事を詰りて、佛法に意ある者は、形態の美なる好まず、まして容儀を整ふべき謂れなし、其容姿にては寺門に在らんことを恐る、まして在住かなふべからずとて、即座に席を追拂はれたり、了然力なく立去り、或家に入りて云々の事を語り、傍にありける銅器を火中に差し入れ、その内少し物を案ずる體なりしが、いつしか銅器の深赤になりたるをとつて、面頰に押當て押當て、盡く焼き爛らかし、さて筆を執つて

昔遊宮裏燒蘭麝。今入禪林燎面皮。四序流行亦如此。不知誰是箇中移。

いける世にすてゝたく身やうからまし終の薪と思はざりせば

かく吟詠して後、復た白翁に見えしかば、和尚も大に感歎して遂に在住を聽許せり、後、江戸城西落合村泰雲寺を開基し、正德元年寂す、辭世の詩あり。

六十六年秋已久。凛々月色誰向明。莫言那裏工夫事。耳熟松杉風外聲。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

獨逸の婦人

巖谷季雄

▲獨逸の婦人　獨逸に於ける女子敎育は漸く此頃から始まつたと云ふて宜い位てあるから。他の大陸諸國に比しては甚だ進歩して居らぬ。從て文字を知らぬ婦人も國内には隨分ある樣な所から、世界に於て最も日本婦人に類似の點を多く有して居る、殊に其謙遜で溫和なる所は英米の婦人とは全く趣きを異にして居る。一例を云ふと、先づ汽車とか電車で男子が席を讓ると、英米の婦人なれば平氣で席に着くのを、獨逸の婦人は一禮をして後に腰を卸すと云ふ有樣である。

▲社會的事業　獨逸に於ける婦人に關する社會的事業と云へば、何れも全く婦人の力のみに依つて成功して居る。其中に勞働者の便利を圖るために嬰兒の預所を設け、晝間其兒を預つて世話する所も出來て居る。其他老人寡婦の慰藉所、世上の安全法までもよく注意して居る。故に社會の紊亂を救ふことが甚だ多いのであります。

▲長所は家政　獨逸婦人の長所は家政てある。何事にも約やかて、臺所の經濟には最も妙を得て居る。彼の國ては例へば鳥度パンの切り樣とか、料理の作り方の如何を見て、主婦としての資格があるのないのと評される程てある。其爲めてもあるか、主婦は家事に就ては何事によらず大變に熟達して居る。殊に料理等の手際は誠に上手いものてある。

▲己克の氣風　獨逸の婦人は凡てに於て餘り質素てあるから、お世辭もよく愛嬌もある割合に、華やかなる交際場裡へ出ると他國婦人には一歩を讓らねばならぬ傾きがある。また單り女子のみでなく、男子も元來獨逸人は甚だ頑固て、日本て云ふと東北人の如き所があるから、氣の利いた才子風の人物が甚だ少ない。何事を聞いても容易に解釋のつかぬ性てある。而し一旦心に染み込んだ事か、または深き學問にてもなると、飽くまでも成し遂げると云ふ氣風てある。殊に此頃は段々敎育の進歩と共に米國風を頻りに輸入して居るから、遠からぬうちに男女共完全な發達をなすてあろうと思ふ。

▲女子の獨立　米國の婦人は自己の贅澤のために、獨身生活をする人が多いのであるが、獨逸ては是れと少しく違つて、婦人の數が多いのと結婚に必要なる財産の關係から、止むを得ず獨身に終る婦人が多いやうてある。故に商店、銀行、郵便局、停車場等至る所に婦人が居るが、なか〳〵活氣に滿ちて勢い能く働いて居る。斯く獨身者の多いと共に、裏面の腐敗云々と云ふ人もあるが、獨身の婦人となれば、相當に社會の制裁もあるから割合に過ちがないやうて、夫れに反して却つて有夫の婦人にして往々裏面の濟からぬものがあるさうてある。是れは獨逸婦人の爲めに惜むべきことてある。要するに獨逸婦人は家政を處理する上に於て、善き妻君てある。

海水浴に就て

糸左近

暑くて〳〵堪らぬ時に運動して涼しくて、空氣が宜くて氣持よく、身體が淸潔になつて丈夫になるといふ重寳な事が有つたら、否有つたら位て無い確かに有る、何てせう。

斯う尋ねたら、必ず「海水浴」だと答へらるゝに違ひ無い、然り海水浴てす、今其の善い譯を述べると、

海水は一種の鑛泉即ち鹽類泉と看做すべきもので、これに浴すれば脂肪過多症・常習便秘・痔疾・慢性皮膚病・消化不良・胃擴張・咽喉加太兒・慢性子宮病・汗の分秘過多・腺病・梅毒・僂麻質斯などの病氣にも多少の効ある上に一海上の空氣は濃密てあるから、其の肺に吸ふ所の酸素は自然に多量になる。二海上の空氣は炭酸や瘴氣及び有機物を含んてることが少い。三空氣は濕つてゐて、しかも食鹽を含んてる故呼吸器を強壯にす。四海氣は溫度が均一てあるから風邪に罹り難い。五海水に浴すれば快適の感覺を起す。六四肢活潑となり食慾進む。七皮膚の蒸發を增し尿の分泌を減らす。八多少體重を增す。九血液の循環を增す。十波動の爲めに筋力を增し神經を興奮せしむ。

効能はザッと右の通りてすが、牽強附會れば尚々有る、斯る結構なるものなるにも拘はらず、余は御行り遊ばせと、餘り御勸め申さぬのだ、さア其譯は　海水浴を行るには條件が有つて、其の條件を守らねば却つて害があるからてす。所が容易に守らるゝ可き條件ては有りませぬ。兎に角述べて見れば一可成孤島の岸て行れ。二波動の強い所が宜い。三北方に高山を負ひたる所。四七八九の三ケ月。五酒色を禁せよ。六慵弱なる習慣を廢せよ。七一日の浴數は一回から始め遂に三四回に及べ。八一浴の時間は強い人て三十分。九午前十時頃か午後四時乃至六時まて。十午睡をするな、十一朝寢夜深をするな。十二麥藁帽子肌衣猿股濱邊用の靴大なる西洋手拭を持參せよ。十三游泳せねばならぬ。十四虛弱なる人は行るな。十五食物は淡泊なる物を取れ。十六間食するな。十七精神の刺戟を避けよ等。

この條件は何ても無いやうなれど、豪傑に非る限りは到底守られませぬ、守られなかつた生地無き余の經驗談を白狀致しませう。

一昨年の八月余は愚妻を伴れて某海水浴場へ一ケ月逗留す可く出懸けたのです。行つて見ると余等の如き常に貧乏生活をして居る者には實に愉快てあります、第一宿屋が我等の出征軍人を歡迎するよりも、より多く歡迎してくれるを始とし、次は暢氣てある、即ち何も爲る事は無い。我家に居れば寢て居たくても色々の事務があるから巳むを得ず起きるけれど、宿屋に居れば何時に起きようと勝手なものだ、斯う思ふから自然遲くなる、遲く起きても爲す事は無い、間も無く朝飯を運ぶ、けれど運動せぬから食欲が進まぬ、進まぬながら役目を終る頃は最早十時、食事後直ちに海水浴は惡い、休憩せねばならぬ、詰物ても讀まう、別にこれといふ書物も携へて居らぬ、グッ〳〵してる間に午飯を持ち運ぶ、朝飯後二時間しか經たぬから、矢張さつぱり食欲は無い、エー御酒一本持つて來い、飲む、睡氣が襲ふ、巳むを得ず睡る、目が覺むれば三時、さア海水浴、浴場に行けば男女混浴て、網を張り圍をしてあるでも無ければ救助舟があるても無い即ち渺々たる波に逆はねばならぬ、て游泳ても達者に知つてる者はいざ知らず、さうて無い女の人などは岸の方に恐い〳〵と言つて、膝まて入れる位なものだ、さ無くば唯ドンブリと水に浸つてるだけて泳ぐなどは出來ぬ、てあるから運動にならぬのみならず面白く無い、て宿に歸る、モウ五時晩餐余は家に居れば一合半の晩酌量ては醉ふて樂しむのだが、何うも此の量ては飮んだやうに無い、今一本即ち約四合て無くば承知が出來ぬ、終つてから欄杆に掠れてると何れの室にゐる者も同生活なれば一面識も無き人から言葉をかけて來る「失禮ながら碁を御打になりませぬか」「四目殺位は」「僕も底無の笊てすが」是に於て丁々戰はす、敗れば取換さう勝てば嬉しい何時にならうと關ふことは無い、斯うなると妻の方は亦女同志て、喋々饒舌つた揚句は間食となる、彼是凝るのは早くても十二時、これが且復且、後には面白くも何にも無い、遂に消化不良を土産にして歸るのてある。歸つた當分は惰弱な習慣が附いてる爲に、何をすることも厭、嗚呼海水浴には懲々したと呟く位なものだ、何うてす豪傑君子に非る限りは恐く斯うならざらんと欲するも豈得べけんやてありますまいか、豪傑とは千人に勝れた人とやら。

衛生訓

ドクトル　富士川游

（一）精神を勞するものゝ養生法

嗹馬國ては、近頃、精神を勞するものの養生の心得を書いて、これを全國の中學校に配布したが、この心得書は大學敎授六名、著名の神經病學者二名、中學校敎員一名、相談の上て作つたもので、精神を勞するものが心得て居るべき要點を擧げてある、すなはち次の通りてある

一。毎夜整然と、且十分に眠むるべし、少くも八時間は睡眠し、又夜更るまて起きて居るべからず

二。讀書の間には、時々休憩すべし

三。毎日一二時間づゝ、新鮮なる空氣中に逍遙すべし

四。食物は榮養に富み、消化し易きものを十分に攝取すべし。消化機能を整ふることを務め、咖啡及び茶は適度に用ふべし

五。酒類は、身體を強壯にするの作用を有せず、又精神を興奮するの作用を有せず、却て酒類は其の小量にありても巳に理解力及び思考力を減弱するものなり、故に決して之を用ふべからず

弊紙は毎號、其の掲げたる記事につき、讀者諸姉が

一善き敎訓なりと感じた記事
一利益を得たと感じた記事
一善く書き善く詠まれたりと感じたる短文、和歌、俳句、新體詩

等を承はりて、編輯上の參考として次號より掲げ度し、御通知はハガキにて結構

本號に對する締切日　八月十五日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉有功章贈與　左の人々は本會に對して功績尠なからざるにより本月二日午前十時閑院宮御邸に於て有功章御親授あらせられたり

一等有功章　本會顧問　公爵　二條基弘
同　子爵　伊東祐亨
同　子爵　岡部長職
同　子爵　小笠原長生
同　子爵　谷干城
同　男爵　松平正直
同　男爵　清浦奎吾
同　男爵　澁澤榮一
同　歩兵中佐　堀内文次郎
同　法學博士　高木豐三
同　閑院宮家令　松井修德
二等有功章　元本會顧問　子爵　松平直敬

◉評議員遊説　本部評議員棚橋絢子氏仁尾繁子氏は千葉支部の招ぎに應じ本月廿二日出發、千葉町なる同支部に赴き夫れより木更津町に向ひ翌廿三日同郡内の村長及び小學校長幷に會員來集の席に於て棚橋氏講話を爲し同日午後歸京したり出張の目的は支部内君津郡町村長及小學校長の集會に臨み本會の主旨を陳べ幷に事務上の打合を爲すにあり支部長も終始同行せられ事情疏通上極めて好都合なりしと云ふ

◉遊説員消息　富樫まき子氏は靜岡地方　野中やち子氏は三重地方遊説中なり

◉兒玉大將に弔詞を送る　同大將と本會との關係を詳記せんに本會の創立にあたつて各府縣に支部を置き其行政長官たる縣知事の夫人を以て支部長に囑托し其行政區畫内の會員募集を計らんと計畫せし處師團所在地の府縣に在つては行政官の夫人と陸軍將校夫人との間柄兎角に圓滿を缺きたる嫌ひある場所ありたるが其當時兒玉大將は本會よりの希望を容れ以て其間を融和する事に專ら力を盡されて今日の如く地方支部何れの府縣に於ても圓滿なる發達を遂げたるものにして本會に對しては少なからざる功勞ある方なるが卒然薨去されたるは惜むべし本會は同大將の訃音に接し會長よりして左の弔詞を贈りたり

陸軍大將正二位勳一等功一級子爵兒玉源太郎閣下薨去せらる豈に哀悼に堪へんや
抑も本會が今日の盛況に到りしは實に閣下の援助されし功果許多なりし今や忽焉閣下の遠逝を聞く深く追悼して措く能はざる所なり茲に總裁殿下の台聞に達し肅みて弔詞を呈す

尚葬儀の當日は多くの職員會葬すべき筈の處葬儀委員よりの注意もありたる爲め東鄕鐵子福島貞子宇佐川種子波多野爲子高木鉎子下田歌子長岡芳子柳谷千代子仁尾繁子横幕むら子進みち子金子貞子前田富子の諸氏會葬したり

◉事務長補助　本會の事業擴張に伴ひ事務も自然繁雜となりしにつき今回陸軍歩兵中佐高松鐵太郎氏を招ぎ臨時事務長補助を囑托したり

◉男子の贊助員　六月十四日付け愛甲第七十一號にて左の通り通牒したり

男子にして本會の爲め盡瘁し其功勞未だ功章を與ふる迄に至らざるも將來會務擴張上中途奬勵の必要あると認める、時は當該支部長の申請に依り贊助員に列せしめ金色贊助章並に贊助員證(七圓以上出金者に交附の分)を贈與致候に付御了承相成度候此段及御通牒候也

右の通牒により右支部長より贊助員章贈與方申請者少なからず現に贈與せし支部は兵庫愛媛島根群馬埼玉等なり

◉牛込區軍人家族授產婦人會の寄贈　同會に於ては今般其作業を停止せしにより見積價格三百三十三圓七十三錢の物品を寄附されたるにより本會は之を引受ける事を承諾し去月卅日其受授を終へたり

各地支部の狀況

▲東京支部　第二期の擴張に際し左の添書を添へ夫れ〲擴張に盡力中なり

愛國婦人會は戰死者又は準戰死者の遺族及癈兵を救護し國家の干城たる軍人諸氏をして後顧の憂ひ無からしめんが爲めに設立せられたるものにして明治三十七八年日露戰爭に於て我軍が連戰連勝を得たるは恐れ多くも　大元帥陛下の御稜威と軍人諸氏の忠勇義烈の結果に外ならずと雖ども我が愛國婦人會が爲したる後援の力も亦與つて其効ありしことは今年二月二十一日畏くも　皇后陛下より本會の盡瘁せる救護事業を御嘉稱あらせられたる令旨に由りても明かなり又今年五月新宿植物御苑に於ける本會の總會には　皇后陛下の行啓を辱うし加ふるに本會事業の益々榮大に赴かんことを望ませ給ふの令旨を拜受するの光榮を得たり之に對し　總裁殿下は戰後の大局に當りて我救護の實を擧げ以て　大御心を安し奉るべきの意を事答わらせられ尚本會々長岩倉公爵夫人は　總裁殿下の御意圖を奉し各支部へ會務擴張上に關して諭達せられたるを以て此の際大に本會の旨趣を擴張し會員大募集に着手せるは他なし昨年日露大戰役に於て損傷したる人命の多大なる六萬有餘の戰死者に加ふるに約三萬の病役者を以てし且調査未了の療兵と日清及西南役のものとを算する時は實に十數萬の多きに上るべし而して當支部下のみに於ける戰病死者の數にても約二千七百餘人之に癈兵を加ふる時は二千八百人以上に達すべく此の内悲境遇にして救護を要すべきもの三分の一と假定する時は殆んど千人に近き被救護者を生ずべき見込なり依て之れに對し本會の目的たる救護の實を擧げんとするには多數會員の力を併せ鞏固なる救護基金を愈々充實ならしめ永遠に之を救濟し得るの途を求めざるべからず然るに昨今各支部下女子人口に對する會員數の比較を見るに山口石川は千人に對し五十人以上山形支部亦四十人以上なるに當支部は該數の下にありて女子人口百十四萬餘の多きに拘らず僅かに千人に付て十六人餘に過ぎざるは誠に遺憾の極みなりと云ふ可し　以上陳述せし如く本會の事業は戰後即ち今日以後益々責任の重きを加ふることにしあれば大に此の旨趣を賛成せられ一ヶ年喩價かに半襟一掛分を御節略の上その實を斯る慈善の事業に投ぜられ陸續御入會あらば本會の旨趣徹底すると共に上は　皇后陛下の大御心にも副ひ奉り下は飢に泣く軍人の遺族なく寒に苦む癈兵なからしむることを得むあはれ大方兄弟姉妹たち此際奮て御入會あらんことを偏に希ふ

愛國婦人會東京支部

▲三重支部　三重縣阿山郡幹事部に於ては幹事部總會を同郡上野町廣禪地に於て開催せり本部よりは同地出張の遊説員野中やち子氏出張し支部よりは大野副長加藤評議員玉井主事出張せり今同支部の通報によれば同幹事部は從來女子人口千人につき三十三人餘の比例なりしが今回の總會に際して千人に付き四十三人の比例に增進せり同集會に軍人遺族幷に癈兵を招待せし處來集するもの百五十六人紀念の扇子菓子幷に折詰を贈呈せり次に來會者の數は一千餘人にして頗る盛大なりしと云ふ

▲岡山支部　上房郡には今回一層愛國婦人會員を增募する計畫にて各町村委員は之れが勸誘に努め居れるよし

▲北海道支部　同支部の現在會員は一萬九千九百七十一人なるが來る九月には總會を開き其節は總裁殿下の御台臨を願ふよしなるが總會前に於て全道女子人口百人に對し四人五分の割合迄會員數を達せしめん爲め今回評議會に於て會員の募集方法に關して協議を行ひたるが全道の女子人口は四十八萬八千六百三十六人なれば之れに對して會員二萬四千百十三人を得んとするものにて現在會員以外に新に一萬二千百四十二人を募集せんとするにあり其標準左の如し

幹事部名	女子人口	現在會員數	新募集數	合計
根室	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
宗谷	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
網走	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
岩内	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
增毛	[illegible]	[illegible]	—	[illegible]
札幌區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
室蘭	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
上川	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小樽區	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
空知	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
壽都	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
浦河	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
小樽	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
釧路	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
札幌	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
函館	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
河西	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
檜山	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	四八八、六三六	一一、九七一	一二、一四二	二四、一一三

▲長崎支部　同支部内に篤志婦人ありて名を原口かめ子と云ふ人なるよしなるが單獨旅裝を整へ長途の海風を浴び遙羅新嘉坡の各地を巡遊し同會の會員勸誘をなし非常の好成績を擧げて此程長崎に着したるよし是より先き愛國婦人會長崎支部にては支部長荒川夫人其他幹事縣廳吏員大村郡役所より出張の山口惇一氏その他會員等小蒸汽にて龜子氏を汽船に迎へ相携へ上陸し知事の官邸に入り茶菓の饗を受け暫時巡遊の談話をなし汽車發車を待つて故山大村に歸りたるは午後五時五十分なりしが大村停車場には愛國婦人幹事初め二百餘人の出迎ありて其無事の旅行を祝し車を聯ねて大村町の自宅に歸れり龜子氏は長途の航海に疲勞せしか且歸來匆々の混雜にて巡遊中の詳しき談話をなすの暇なかりしも同氏が會の爲めに獨力勸誘の快擧を試み多大の成績を擧げたるに視れば定めて獻身的苦辛の勞を積みたる感ずべき美談もあるべけれどそは後に報ずるとあるべしと(佐世保新聞に見へたり)

▲青森支部　同支部長西澤泉子氏は會員增募を兼ね遺族癈兵慰問の爲め各幹事部を巡視する筈なりと云ふ尚去月十一日職員會を開き會員增募の爲め月當番組分抽籤を爲し甲乙丙の各組に別ち各郡部に勸誘の爲め出張する筈にして巡回の際は遺族癈兵の慰問を爲し各々蓄音器を携帶して之が慰藉を勤るよし

▲新潟支部　幹事會を開き會員の大募集を爲す事となし職員の各々受持ち區域を定め專ら勸誘中なりと云ふ

渡韓途上

廣島より　堀内文次郎

拜啓小生は故近衛公より御相談を受け他の愛國婦人會發企人諸君と共に不肖の身をも顧みず及ばずながら本會の爲めに微力を致たし爾來本會貴婦人方より一方ならぬ御世話を蒙り感謝罷在候然るに今回平壤に轉任するに當つては特に盛大なる送別會まで開かれ小生は實に此送別會程愉快を感じたる事無之候心よりして眞實に貴婦人方に向つて感謝の意を表し申候廿四日新橋出立する際炎暑の候にも拘はらず多くの方々の御見送を忝うし小生の光榮と愉快とは永く感銘して忘れ申さず候皆樣と御別袖後午後八時前京都停車場に於て本會顧問たる東本願寺新法主大谷光演師に迎へられ候法主閣下御健康にて候夜九時前大阪梅田停車場にて奧村刀自の出迎を受け候刀自は要談ありとて小生の汽車に乘込まれ神戸まで同行致され候車中の談話總て本會の事業に關する事許りにて今更ながら刀自の精神と氣力の強きには感服の外無之候刀自と神戸驛にて別れたるは夜の十時に候も別かるゝに臨み刀自に向つて返す〲も健康保命に留意されん事を勸告致置申候炎暑の候、會員諸君の御健康を祈り上げ候、敬具

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會

外國婦人の見たる愛國婦人會

左の一篇は瑞西の婦人にて慈善事業取調の爲め日本に渡來し『東京の傷病者』なる一書を著はしたるチエー、シユテユルチエンエツゲル女史が記者に送られたる書信の譯文なり

記者足下

足下は妾に質し給ふに、日本婦人の團體的生活が、妾に及したる印章を以てせられ候、此事に付ては、拙著「東京の傷病者」中に、記述致し置き候ひしも、尚喜んで此に再言いたすべく候。

總じて貴國の共同事業別しては愛國婦人會の御事業は、何人をも必ず感嘆致させ申すべし、實に完全なる内外の組織、合法的活動、諸部諸事の一致整正、凡そ此の如きは世界獨歩と申すべきに候、夫の九段に於ける多數貴婦人の活動を見、更に新宿御苑に於ける莊重なる愛國婦人會總會に臨み、益々此念を強め候ひき、即ち本年招魂社祭事の節、帛服氣高う雪手優しき高級の貴婦人方が、五日の間も、朝は早くより夕は晩くまで、民草の數を盡して波と漂ひ來る人々に、茶菓をば供し給ふを見て、此茶菓の澤なす蓄へさへ今に集りしものならぬを思ひて、云ひ難き感想に打たれ申候、次に又新宿の式典に於ては、髮飾のみ見ゆる二三萬の婦人達が、肅然として　皇后陛下を迎へられたる、座に畏縮仕り候、尚沁み亘るが如き國歌の吹奏は、聞く度毎に彌まして、妾が感慨を強め候ひき、斯る事は、歐洲にては逢ひ難き事に御座候、是れ併しながら祭典執行上の不可思議力、貴國々民間の不可思議力、就中皇室の有せさせ給ふ抗ひ難き不可思議力に據る事と存じ居り申候。

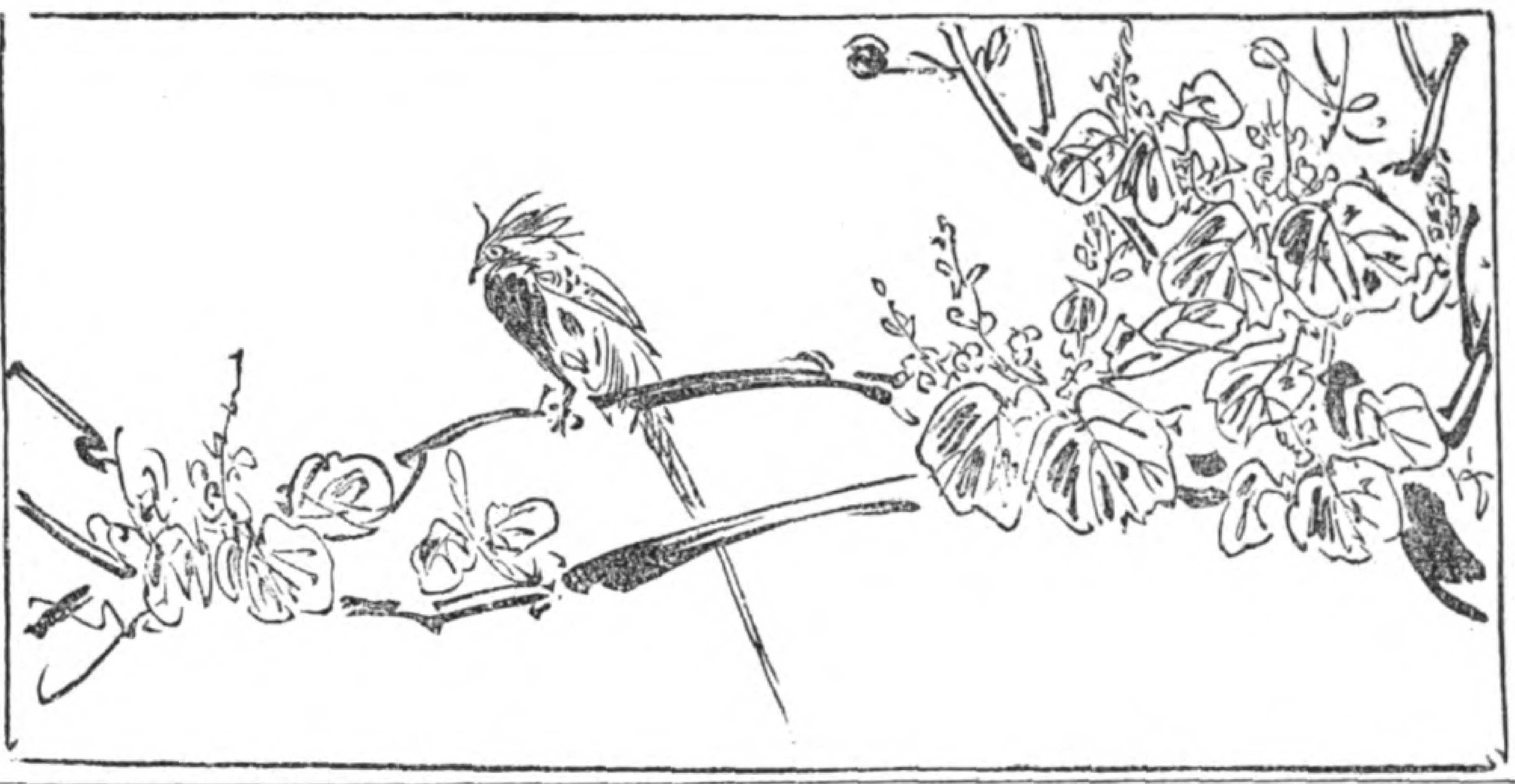
我瑞西の祭典は、之とは甚だ事異り、式時の嚴正靜肅を缺ぎ、參會者も實に少く、總會は公所にて催され、之には招待せられたる者のみ參集致し候、一年間の收支の計上を、口頭にて報告せらるゝ事なく印刷に附せらるゝ事はいよ〳〵稀に御座候、司會者の演説終り候へば、如何しき議論などにて、騷ぎ出す事も多く、飲食歌笑して、歡を盡し申し候。

斯く申候へばとて、故國の婦人事業を惡く云ふにては御座なく、只社會生活の異り候如く、其遣り方の異り候耳、例へば赤十字協會も、其會員は男女より成り、婦人の方は看護婦養成を努め候、看護婦の暇ある者は、貧民病院又は貧民救養の業を助け候、經費は協會自辨なる時と、公私貧民協會の合資を仰ぐ時との別有之候、戰時赤十字協會の婦人達は、繃帶を製造する等の事候へば、貴國看護會の事業の如きは、弊邦上流社會に行はれ申さず、但特別の教育を施されたる強健なる少女が、負傷者扶侍の劇務に當る次第に御座候、此少女等は制服を有し居り候。

尚ザマリア人協會と申すもの、全國中到る處に設けられ、會員には男女の別を置かず、且會員は六ケ月間、負傷者扶侍の教育を受くべき筈にて、上流社會の婦人も、多く之に加入致し居り候、平和の節にても、災厄起る毎に、會員等は救助に務め候、其腕には衞生員印章を附け、小さき手鞄には、血止藥、熱止藥、防腐劑、痲痺劑、並に繃帶等を入れたるを持運び候、更に天災地妖の大變には、消防組、軍隊等も現場に驅付可申候、尚又都府或は協會大組合の所在地には、疾病者財産委托所の設備も有之候。

愛國婦人會と同一性質のものは無之代りに、戰時には、ザマリア人協會員と、赤十字協會員とが、其缺陷を補ひ申候。

出資の源は、ウヰンケルリード氏紀念財産にして、「己が妻見に氣を付けよ」と申す金句を傳へ居り候、之は一錢たり共中々手の付け難きものに候、由來數國間に介在致し居り候我小瑞西國は、他國に同情の誠を盡す事有之候、一八七一年、普佛戰爭の際、無數の逃亡者に避難所を供し候ひしが、之が爲め今日バーゼルには、シエトラスブルク人の建てたる感謝的紀念碑も御座候、然耳ならず、ブールバキー將軍麾下の佛軍が、國境内に逃れ



來り、武器を放棄致し候や、戰爭の終局を告げ候迄、衣食を與へたる事も有之候、然れば常々怠らず、紀念財産の増加を計り居り候、之が特種の收入たるものは、年賀客の寄附に有之候、實に例の紀念財産の爲に、無益しき年賀状の贈答を廢して、之により節し得たる金錢を喜捨する事は、瑞西故國の慣習に御座候、斯る愛國の義人とも申べき人々の芳名は、賀客團體と云ふ稱呼の下に、年頭先づ世に廣告せられて、各種の祝賀状を省略致し得る事になり居り候。

尚此外、國家並に組合の、義務的扶助も有之候へば、癈兵及貧窮なる軍人眷屬を扶養し得る次第に御座候。

誠に同じからぬ道筋も、末は同じ所に通ふものに候哉、扨妾が故國にては、男女共に之に從事致し候に、貴國に於ては、婦人の特權に候事を知り、快心罷在り候、以前御當地に渡航致さゞりし節、日本婦人に獨立自發の事業なしと云ふ批難を、屢々耳に致し候ひしが、之が有力なる反證は、愛國婦人會の活動、若くは國家多事の秋に當り、戰場に於ける日本武士の如く、振舞雄々しげなりし貴婦會を、指示するより勝れるもの候間敷く候。

以上の外瑞西には、社會的政治的性質を帶び候無數の、婦人の慈善團體有之候、即ち

疾病者協會
貧民協會
風儀協會
中庸協會
孤兒保護協會
墮落少女保護協會
出獄人保護協會
貧窮精神患者保護協會

の如きに御座候、夫の政治的臭味の諸協會は、婦人に關する法律保護の改善、婦人が有する法律上位置の改善、之等に關する民法の改訂、婦人財産の安固、小兒保護律の改善等に努め候、尚又妾が出發前、法律的商業的顧問創設の事を唱道致し候ひしが、今日は實行せられ候て、便利がられ居る由に候、之によりて日常生活上の疑問を解決致すを得べく、專門家の付き居る事に候へば、法律保護を要する婦人は、此の如くにして協會の指導を得る事となるべく候。

嗚呼妾等の郷國も、多くの美所を有し候哉、乃ち東西何地に在るも、妾等が戴くものは一如の昊天、妾等を照臨ますものは、實に亦詩聖ホメールを照臨まししゝ日輪に候ぞかし、穴賢。

海の上の監獄

監獄事務官　巽木喬

日露戰役の紀念として司法省では此度海の上の監獄を作ることになりました、其方法は海軍省より分捕軍艦を一艘讓り受けて、淡路の國の洲本附近の海中に之れを浮べ、此内に十六歳以下の幼年囚を監禁して懲戒の途を計り、又一方には是等の者を善く教育して、後には善き海員を作るの考へであります、元來幼年囚を監獄へ收容すると云ふことは制度が未だ能く調ふて居らぬので、幼年の人に刑を科すと云ふことは社會政策上深く考ふべき事柄で、成る可くは是等の人は不良少年として、感化事業を營むものゝ手に於て感化せしむることが必要かと思ひます、況や未だ十六歳未滿のもので、意思も定らぬものをして監獄の門を潜らしむると云ふことは、其人等の將來に容易に拔く可らざる惡しき感化を與へるのみならず、他の囚人と同一の圍の内に入れることは、之れを改善に導くの方法でありません、そこで海の上の監獄、否な監獄と云ふよりも寧ろ懲戒船を浮べ、之れに幼年囚を收容したならば、第一海と云ふ廣大無限の力に依つて惡しき心も拂はれて仕舞ひ、四周に於ける惡しき事柄に感染するやうなこともなく、海事的作業を與へれば壯健に、且つ快活なる氣象をも敎へ込むことが出來て、懲戒の實を完うすることが出來は致さぬかと思ふて居ります、英國などでは此方法が能く行はれて、テームス川の末流には斯くの如き船が幾艘も浮べてあつて、今日までの成績は甚だ宜いとの事であります、之れに習つて戰爭を紀念として作ることになつた譯てあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供倶樂部

雀合戰

江戸　靜川

太郎さんのお家と、芳子さんのお家とは、大きな竹籔を隔てゝ裏と表にありました、さうして二人の間のいゝことッたらない、宛然兄妹のやうでありました、朝お籔に棲んで居る澤山の雀がチウ、チウと啼き出しますと、太郎さんも芳子さんも目を覺まして、またチウ〳〵に先き起きられたと云ッて、雀より遲く起きたのを口惜しがりながら、兩方からお籔の傍へ出て來て

「お早やう。」

「お早やう。」

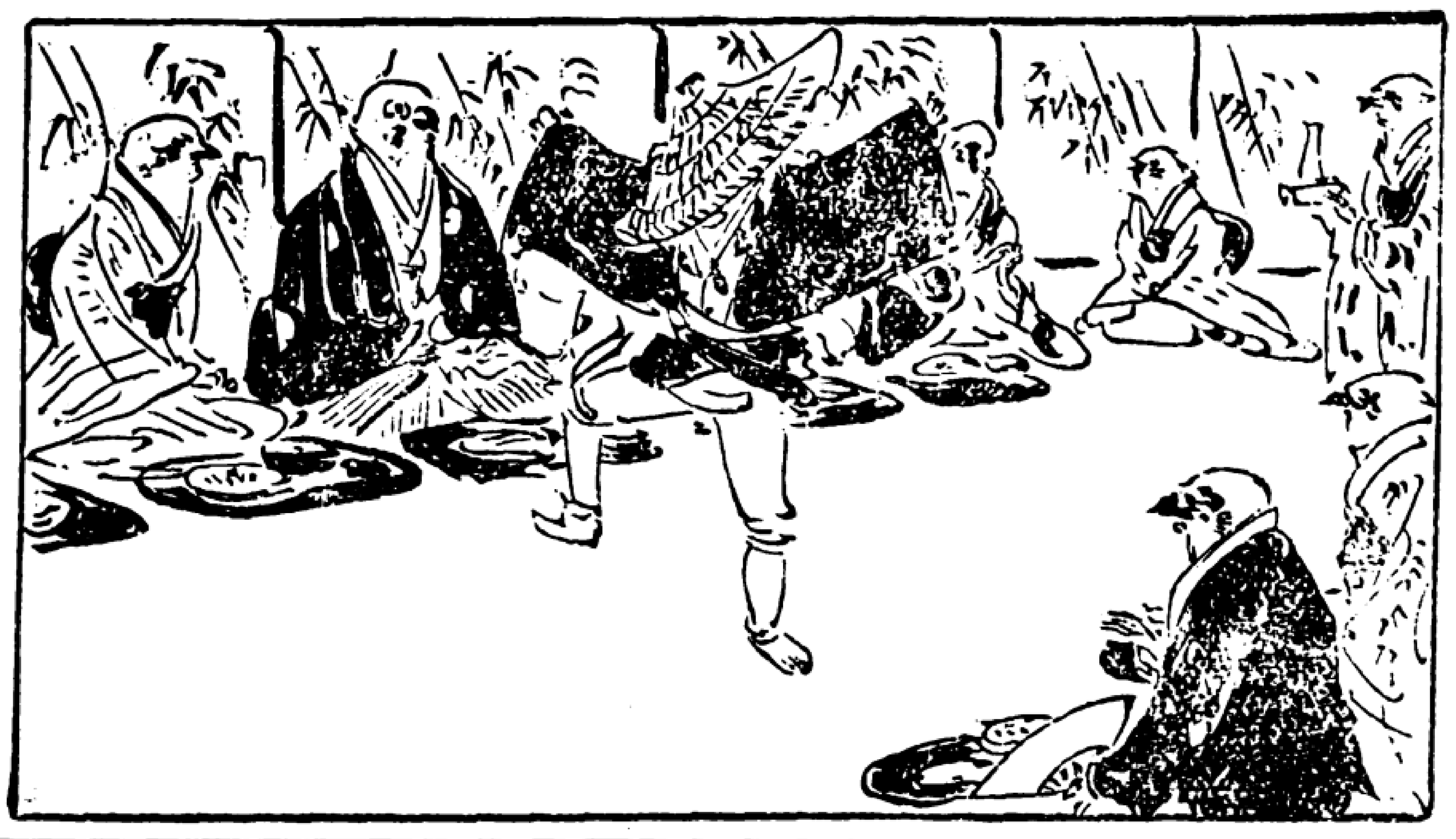
と云ッて朝の御挨拶をします、さうして太郎さんは海軍の士官になッて、大きな軍艦に乘ッて外國へ行ッて來た夢を見たと云ふと、芳子さんは阿母さんや他家の叔母さんのやうに、愛國婦人會の金の徽章を胸に着けて、戰爭で傷を負ッた兵卒さんのお家へ諸種は物品を持ッて進げたら、其の兵卒さんが優しいお孃ちやんだと云ッて褒て呉れた夢を、私も昨夜見たのよと云ッて話す、眞個に二人は不思議なほどの間好してした。

それから太郎さんも、芳子さんも、大變に雀が好きて、裏のお庭へ出ては、お米を撒いて遣ッて、雀を侶伴のやうにして遊ぶのを樂みにして居りました、ですから自然太郎さん側の雀と、芳子さん側の雀とが出來て、夫れがまたこの二人の間の好いやうに間好して、喧嘩もしないてお籔の中を世界にして、毎日〳〵嬉しさうに、チウ、チウ、チウと唱歌を歌ッて遊むて居りました。

所が或日のことてありました、芳子さんはお籔の側へ花圃を拵へまして、其處へ樂燒の燈籠や人形を奇麗に飾ッて、それを太郎さんに見せやうと思ッて、太郎さんを呼びに行ッたのと行違ひに、太郎さんが此所へ遣ッて來て

「奇麗だな、誰が拵いたのだろう?、芳ちやんか知ら、芳ちやんなら花圃を拵へるなら僕にも來て手傳へと云ひさうなもんだ、何んとも云はぬ所を見ると、他の子が拵いたのかも知れぬ、他の子の拵いたのなら關ふもんか、壞して遣れ。」

と云ッて、折角芳子さんの拵へたものを散々に壞して了ッた。



太郎さんを迎へに行ッた芳子さんは、太郎さんに逢へないて悄々として歸ッて來て見ると、花圃が滅茶〳〵になッて居りますので、ワッとばかりに泣き出しました、是れを見た芳子さん側の雀は、太郎さん側の雀に對ッて

「お前ンとこの坊ちやんは惡戲者て困る、お孃さんの折角お拵へになッた花圃を那麼に壞して了うもんだから、お孃さんがお泣きなさる、早く坊ちんやにさう云ッて舊のやうにして返へせ。」

と云ひますと、太郎さん側の雀は

「ナニ、俺ンとこの坊ちやんが惡戲者だッて、おいてくれ、初めにお孃さんが斯う〳〵だから手傳ッて呉れと云や、壞す所か坊ちやんは喜むで手傳ッて、もッと奇麗に出來たものを、彼なに間よくして居りながら、默ッてするからお孃さんが惡いのだ。」

と云ッて、何方も敗をとらない、結局喧嘩を始めました――雀合戰！

何しろ大きなお籔に何千何萬と居る雀の合戰ですから、吶喊する時の啼き聲なんと云ッたら、ピアノやバヰウオリンやお琴を澤山集めて、夫れを一時に彈き出したやうでした。

其の合戰は三日も續きまして、戰死するのもあれば、羽を捥がれ、脚を折られた負傷者も出る、さうして夫れが何時お結局になるとも知れません、所でこの合戰は、自分等の過失から起ッたことであると云ふことを、太郎さん芳子さんの氣付いた時の嘆き悲みは何麼でしたらう、可愛い雀が自分等の爲めに命を捨て身に傷を受けて戰ふとは、アヽ惡いことをしたと大變に後悔しまして、太郎さんと芳子さんとは舊のやうに宜い間になッて、壞れた花圃を二人て修繕しにかゝりました、すると雀も坊ちやん孃さんの間が直ッたからと云ふので、お互ひに陣を退いて、合戰を止めました。

其處て二人はお籔の中を、其方此方と探して、手傷を負ッた雀を見附け出し、芳子さんは看護婦、太郎さんは軍醫になッて介抱をして遣りましたので、皆ンな壯健になりました、夫れから戰死したのは花圃へ葬ッてお墓を建て、お花を供へて弔ッて遣りました。

雀の方ては、戰死者も出來、負傷者も出來たが、坊ちやん孃さんの間が直ッたから合戰をした甲斐があッたと云ッて喜むで、お籔の中て凱旋式を擧げまして、餘興にはお手のもの、雀踊りなんかゞあッたと云ふことです。（をしまひ）

▲蜻蛉か鳥か

四歳になる坊ッちやん。お家に飼ッてある「ジョン」といふ犬が、大層お好てございました。

ある日、父樣が抱ッこして、お庭へ出て居ますと、木の蔭から、ジョンが尻尾を振りながら出て參りました。父樣は、

「坊、あれは何んだ。」と訊ねますと、

「ジョン、ワン〳〵よ。」と廻らぬ舌て、やッと謂ッて「坊、ジョン、大好。」

「さうか。」と父樣は笑ひながら「ジョンは何んだ。」

「ジョン、ワン〳〵よ。」

「よし、よし。」と父樣は、うなづいて、

「ワン〳〵は何んだらう。鳥か、獸か、それとも蟲か。」

坊ッちやん、少時默ッて考へてゐて、

「ワン〳〵、鳥。」

「ワン〳〵鳥か、さうか。何故。」

「だッて、ジョン、飛ぶから。」

そこて、父樣は、鳥といふものは、翼があッて、空を飛ぶものであることをお話しなすつて、

「ね、可いかね。だから、鳩だの、鴉だの、鳶だの、雀だの、そんなものが鳥なのだ。ジョンは飛ぶけれども、地びたを飛ぶのだから、これは鳥ではない、可いかな。鳥といふものは、地びたを離れたところを飛ぶものだ。」

と謂ッてゐるところへ、大きな蜻蛉が一羽、つ、つ、ついと飛んで來て、直ぐ坊ッちやんの傍の石の上に棲ッて、羽根を光らせてゐました。すると坊ッちやんは此の蜻蛉を指して、

「父樣、あの蜻蛉は鳥?」

富士山に登る

單身富士登山の少女　吉弘政子

孃は大阪日報社長吉弘白眠氏の令孃にして本年僅かに九歳なるが、單身富士登山を試み、首尾能く其目的を遂げ、此程上京されたる際の談話なり。

▲富士の山と云へば遠い〳〵高い〳〵山のやうに思ふて行きましたが、登つて見れば噓を見たやうてありました。

▲一番面白かつた事　富士の頂上に登つて、銀明水金明水が吹出して居るのを見た時が、一番面白うありました。

▲一番氣の毒にあつた事　胸突八丁の處て、强力が浮雲いから負ふと云ふのを振り放して、ズン〳〵先へ登つて參りました、强力が走つて登らうとした處が、色が眞靑になつて嘔吐を吐いたことが、一番氣の毒てありました。

▲一番嬉しかつた事　首尾能く登山を終へて下山した時が、何により彼により一番嬉しうありました。

▲一番不自由てあつた事　食物に一番不自由を感じました、山の上ては只携へて往ッた麪麭のみを食べて居りました。

▲一番恐しく感じた事　お鉢廻りをして元の噴火口てあッたと云ふ所を、覗いて見た時てありました。

▲一番不思議に思ふた事　山の頂上に泊つて朝起きて見たら、お日樣が下の方からぽッかり顔を出して居られます。

▲一番腹立しかつた事　强力が胸突き八丁の處て負ふと云ふて引張つた時と、砂走りを滑つて下りる時、浮雲いと云ふて强力が怒つた時。

▲一番妙に思ふた事　何處の宿屋ても、私が宿賃を拂ふとすると、貴女のを頂くことは出來ませんと云つて、確く斷はつて支拂を受けぬ事。

▲一番心配した事　人の顔色を見ると靑くなつて、唇の色が皆紫になつて居るので、自分もさうかと思ふて心配したが、自分は幸に平常の通りてありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

▲曉色　京都　花輪余志野

曉の夢より覺めて起出れば、しらみそめたる東雲の空あくまで靜かに、そよとの風もなき庭の木立よりしづくする露の音、遠寺の鐘の音ゆる〳〵響きて、終夜鳴きしきりし蛙の聲も杜絶へぬ、げに靜かなる此曉よと少時無人の境をたどる心地して、あかず咏むる庭に、昨日まで蕾なりし白百合の露をふくみて咲き出でたる、花の色に何れはあれど、眞白なるこそ殊にめでたけれ。

▲選者曰　目覺むるばかり美しき文

▲山百合　埼玉　水野淑子

山百合の花、妾は何故か非常に此花が好きである、白い色すぐるゝ姿、さては俯いた花、葉並びの正しい樣など何れも不滿足な所がない、そして花の白きは心の潔白なるべきを敎へ、虛飾のさめ易きを戒め、或は常に我より下の境遇を見て欲を抑へよとて、其花決して上向かぬなど、我ために無二の益友たる道を盡して居るので有る、又その根は一片一片集まつて刻苦の効を敎て居るやうに思はれる。

▲選者曰　謙遜又莊重

▲鎭守祭　埼玉　森田竹子

今日は村内鎭守の祭とて、華に着飾りたる少女三人五人嬉しげに語りつゝ行く後より、六つ計なる孫の手を引きたる嫗も見ゆる田圃の中道、彼方に殘る淡き夕日の影も鳴く蜩の聲と共に次第に消えて、彼處の森の陰より賑はしき囃子の太鼓に笛の音も交りて折々は氷賣の聲も聞ゆ、炎熱燒く計なる野に出て働きてのみ居る村人の、如何に樂しき今日にかあらん。

▲選者曰　目に見るやうなり

▲常陸丸　大阪　富永才子

今し壇上にて彈じ出られたる琵琶の曲は玄海の波濤に無限の恨を殘して埋沒したる常陸丸とぞ聞く、一音一律次等に悲調を帶び、我が武士が十年の間鍛へに鍛へし日本刀に、咫尺を隔てぬ仇の血汐も染めあへずして、身は潮の泡と消えて行く末期の心情を遺憾なく歌はるゝ哀れ深さよ、滿場寂として咳の聲だに聞えず、あはれ地下の英魂いかにか聞き給ひし。

▲選者曰　直に取つて絃に上して彈ずるを得む

▲蟲を友　東京　小熊節子

昨日まで語らひし友は歸省の途に上りぬ、なつかしき父母君の許に樂しき語らひに夜更くるも知らであるもあらむ、又磯の松風波の皷を耳にして、波に碎くる月をめでゝ、あかず立たずむもあらん、さはれ我は塵深き都の賤が家に、つゞれさせてふ蟲を友に、ほゝゑみ給ふ母君の御膝の下、今日も布洗ひ又とき暮しぬ、樂しきかな我れいかで他を羨まん。

▲選者曰　美しき筆

▲白こそ　群馬　横川千賀子

物の色多かる中に、白こそ淸く尊けれ、夏の夕べ白き衣の凉しげなる、冬の晨降積む雪のすが〳〵しき、偖は花の色、鳥の翼も、白きは殊に氣高き心地ぞせらるゝ、實に昔より穢に染まぬ人の心を白き糸にたぐひ、幼子の罪なきを白き紙に譬へけむも故あることにこそ、あはれ世の姫君が塵を厭ふて肩に纏ふ肩掛の、雪より白き、はた髮に簪せるリボンの眞白きがごと、心の中も此色の如く淸きは床し。

▲選者曰　淸く床しき筆の運び敬服

▲光榮　山形　阿部さゐ子

去し明治十四年、畏れ多くも聖上陛下東北に御巡幸ましまし、畏くも我親戚を假の行在所と定めさせ給ひぬ、其折我家に傳はれる、後藤の作蓬萊の活筒、蛇籠の置物を天覽に供し奉りしに、端なくも破れ椀小き樽など流れ込みし狀したる彼の蛇籠御目に止まりしを以て、直に獻上したり、これ實に作者の光榮耳ならず、こよなき我家の光榮にこそ、蓬萊の活筒は今猶我家に藏し居れり。

▲選者曰　蓬萊の活筒寫眞して諸姉に見せ給はずや

▲寫眞　群馬　伏島たき子

有功章を右に、會員章を左にと記しある規則書を操り披らきて、それ〳〵胸につけ、幾度も姿見に向へど、醜き形の淸くなるべきよしもなし、總て設けの椅子に打ちよれば、お目はこゝを御覽ぜられよ、右手には扇を、左手はかうしてと、懇に心をつけられて、寫眞を撮りたりしは昨日の事、さても如何にうつりけん、待ちわびしきはこゝ一週間。

▲選者曰　必らずや美しく撮れたるならん

▲短文應募諸姉へ

今回より募集短文は十八字詰十行以下、即ち百八十字以下と定め置きたるに、十行以上のもの多かりし爲め、選者は其の選擇につきて非常の手數をなし、漸くにして以上の入鑑を得たり、乞ふ示後は規定を堅く守られたし（選者）

新詩

眞如の月　群馬　伏島たき子

やよ明てたべあけてたべ
こゝ明てよとほと〳〵と
しづかにひく〳〵力ある
聲にて門をおとなへば
あないぶかしや雨の夜に
狐狸の仕業かしらねども
心にかゝる彼のこわね
答と共にたちいづる
一人の女よはひ今
四十路あまりを六つ七つ
こえやしけんと思はれて
やせたる姿あはれなり」
あななつかしや母上よ
みあしの惠みいかにかと
あけくれ心にかゝれども
儘ならぬ世のはかなしや
とふよしをなみ今日迄も
すぎつることの本意なさよ
脊戸の流にあさりたる
鮎すゝめんと忍びつゝ
今宵こゝにと來つるなり
いざめしませよ母君と
ことなきさまを見るにつけ
うれし〳〵と取りすがる」
浮世の義理にせめられて
別れしわが子ほどちかき
となりの里に住まへども
逢ひ見ん折も稀々に
たのむかひなき親子草
力なげにも手をとりて
此方へ來よといへばいな
あすの朝明に父上の
せよといはれし事のあり
卒まからんといひ〳〵て
止てもとまらぬことのはを
悲しと思へどせんぞなし」
さらば送らんせめてかの
森すぎんまでもろともに
ゆかんといへばいな君は
病後の身なりいとひませ
通ひなれたる里のみち
心安かれ母上よ
あないとしやなそなたこそ
わが上思はて父母に
つかへまつれよまこともて
いとこまやかに語らへば
雨はいつしか晴れ渡り
眞如の月のかげ淸し」

▲選者曰　俗氣多けれどまた捨て難きところあり

▲はちす　京都　淸水いま子

ちりの浮世を外にして
濁にしまぬ山寺の
庭淸らなる池の面に
こぼれて落る月影に
玉かと見えて葉がくれに
匂ふはちすぞ美くしき

▲選者曰　淸客掬すべし

▲翁が家　埼玉　森田竹子

里の童が嘲りし
翁が家の一人子の
流離ふ旅より歸り來て
破れし垣も繕はれ
刈りて乾したる眞菰草
吊せる軒に珍らしく
笑ひ美しき若き人
赤き手柄の髷掛け
日毎々々に見えてより
光明の煙立ち昇り
庭の松ヶ枝吹く風も
千代を壽く聲に似て
結ぼゝれたる心根の
憂も解けゝむ此頃や
ひかりみちたる翁が面
晴く空に輝きぬ

▲選者曰　多才なる哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天

たきさして人はすゞみにいてつらむ月にうすらくをちの蚊やり火　北海道　西久子

▲評　四五句ことに妙なり、老手ならでは。

地

文をよむうなじさす蚊に驚きてみれは蚊遣は早つきむとす　京都　花輪余志野

▲評　會心の當、よみふけりたるさまなかし。

人

夕顔の花のみ白くあらはれて家居小闇き里のかやり火　福島　横川兼子

▲評　蚊遣と夕顔、配合陳套を脱せざれど、二三句よくいはれたり、化鐵爲金ものか。

佳調

山形　阿部さゐ子
なく蟬の聲しづまりて軒ごとに打なびくなり蚊火のけむりは

○東京　岡田春子
てる月にさはらぬほどはたく蚊火のけふりもゆかし小山田のさと

○愛知　名取照子
月かけにすゞしくなびく薄煙たかたきたつる蚊遣なるらん

○東京　森川榮子
半蔀にさし入る月も影淡し軒端をつたふ蚊火のけむりに

○愛知　服部千鶴子
朝夕のけふりは細きしつか家もいふせきまでに蚊遣たくなり

○仙臺　阿部鈴子
夕立は跡なく晴れて山里に立つは蚊遣のけふりなりけり

○仙臺　渡邊作子
月影のくもるもわひし心あらはいたくなたきそ里のかやり火

○神戸　宇野類子
處せくよせしもくつをかきあつめうらのいそ屋にたく蚊やり哉

甲

埼玉　森田竹子
泣く稚子の聲もとまりて賤か家の蚊遣のけふり軒をめくれる

○山口　末田良節子
あやにくに立つる蚊遣のけふりかな月まちいつる山本のさと

○山口　末田竹子
月かけのくもるとみしはとなりよりなひく蚊遣のけふりなりけり

○東京　小島幹子
かやりひの烟のなかに少女子のすゝしくうたふ鄙うたの聲

○兵庫　中村益子
涼みつゝなかむる月に薄雲のかゝるや蚊火のけふりなる覧

○松山　山崎国子
ねくらとるからすの聲もしづまりて蚊遣にくろゝ山本の里

○愛知　市橋幾子
宿毎にかやりの烟立のほりよそめすゞしき山本の里

乙

東京　長鹽錠子
ふすへつるかひの煙のたえぬ間に夕けをいそく夏の山里

○三重　諸戸常子
いたつらに涼まんよりもしはしたにかやりたきつゝ歌をよみてん

○群馬　伏島たき子
おのつから蚊遣となりぬ夕けたくかまとの烟のきをおほひて

○東京　瓜生保子
夕くれの空に一筋たちのほるけふりは賤かかやりたくらむ

谷とめ子

○青森　佐藤楓子
人影は見えて蚊やりの烟のみ軒端をめくる夏の夕暮

○靜岡　萩原さだ子
進み行く世の幸なれや賤か家に蚊遣焚きつゝ物學ぶ子等

○青森　吉田安子
蚊やりすと賤の童かたく柴の烟にこもる夕くれの宿

○青森　鈴木安子
さらぬたに賤か伏屋はすみうきに蚊火のけむりにとちらるゝかな

○青森　田島正子
さらぬたにいふせきものを山里のわらやの軒にけふる蚊やり火

○群馬　木暮千代子
遣水に月はすゞしくすみながら軒端いふせくこもるかやり火

○青森　留目欣子
遠近の靑葉の色もくれそめてかやりのけふり立のほるかな

○山梨　蘆澤露子
よもすからむろの奧木を焚立てゝむせひくるしき山里の宿

○新潟　靑木美家子
窓あけし方へとなひく蚊遣火の煙の末や薄月のかけ

○大坂　富永才子
蟬の聲聞えすなりて夕まくれ蚊やりにけふる山本の里

○東京　山口理勢子
小舟よふ羽根田あたりの薄月夜かやりにくもる川つらの里

○京都　加藤重子
蚊遣火の煙のひまゆ月もれてほのかに白き夕顔の花

○長野　高橋きよ子
たか宿に蚊遣たくらむ夕風になびく烟もほの見ゆるかな

○函館　龍岡とし子
さらぬたにいふせき宿を蚊遣火のくゆる烟の打ちむせひつゝ

○埼玉　水野淑子
細々とかやり火けふる窓のうちに衣ぬふ人のみゆる夜半かな

○東京　三宅ひさ子
二つ三つかやりの下をのかれ來て耳もとさらぬかこそにくけれ

○京都　渡邊勢子
ともすればかやりの烟わか方に風になびきてくるかわひしさ

○京都　前川琴子
蚊遣火の煙の末にゆふ月の光もみえて涼しかりけり

○横濱　鈴木松子
こゝちよき風吹き入りて山里のかやりは軒になびきけるかな

○函館　神尾登女子
夕月を横きり渡るうき雲はいつこの里のかやりなるらん

○京都　渡邊米子
二つ三つさける夕かほ蚊遣火のけふりにしはし見えすなりけり

○岡山　武田須磨子
夕月のかけ落かゝる松原になひくけむりは蚊遣なるらし

○宮崎　久保やま子
年毎に家ゐもまして蚊遣火のけふり眼ふ山陰の里

○函館　安藤喜美子
いへ／＼のあまか蚊遣のなひきあひて見えこそわかれ磯の松原

○京都　金澤秋子
夕くれはこゝにかしこに蚊やり火のけふりいふせき小山田の里

○靜岡　清水初子
燈火もかすかに見えて賤か家の蚊遣の煙たちつゝくなり

丙

東京　五藤敏子
待つ人の來ます今宵に蚊遣たき端居に月をなかめて居らむ

○宮城　金たま子
ゆふたちの雲かとはかり蚊遣火のけふりたなひく夕くれの空

○三重　小島駒子
晴わたる空もかすめてたく蚊火のけふりにむせふ里の夕くれ

○長崎　田中靜子
柴笛の聲もかすれて蚊遣火のけふり立ちのほる里の夕くれ

○山口　荒瀬千勢子
小簾をもる月のいつしか霞みたる軒端つゝきに蚊遣たくらむ

○三重　莊司種子
山里のしつこゝろなき夕暮に蚊やりの烟立こもるらむ

○京都　若山たきえ
山本は日もくれ竹のすき間もる賤か軒端にたてる蚊遣火

○東京　川上芳惠子
しはらくは響のしらへも靜まりて音なくけむる宿の蚊遣火

○京都　磯谷澤子
さみたれのそほふる夕あま戸をはらゝ蚊遣のいとゝわひしき

○埼玉　加藤みよ子
夕風のほとよく吹きて文机によるそたのしき蚊遣せし時

○仙臺　渡邊道子
春の夜のおほろ月とも見ゆるかな蚊やりにくもる宵の月かけ

四久子筆蹟

○京都　松宮春子
野邊遠き都の中は夏の夜の蚊遣もしらて日をむくるなり

○函館　佐多益子
打けふる絕間に月を眺めつゝ賤も伏屋に蚊遣たくらむ

○靜岡　靑木絹子
もく焚く烟にしはし蚊の聲の遠くなるをのあまのふせ庵

○石川　新田暉子
しけりあふ木陰のやとの夕まくれ蚊遣の烟いとゝにきはし

○岡山　貝原壽惠子
おしなへて蚊遣たきぬる山里は煙たつなり夕暮の空

○京都　難波らく子
夕まくれ山本遠く霞むなり賤か軒端に蚊やりたくらん

○岡山　辻まさ子
夕されは蚊やりのもとにまとゐしてかたるもたのし賤か少女子

○京都　松宮菊枝
よろこひてはのみやけの絹團扇に蚊遣をあふく孫のをさな子

丁

兵庫　下岡松枝
家ことに蚊やりの煙たてこめてひるのあつさを凌く夕くれ

○東京　中山正子
軒つたふ蹄の蚊遣質ひつゝ妹かたつきも長き糸くり

○横濱　植野秀子
なつされは賤か家ゐはかひたてゝ煙たなひく里の夕くれ

○縣　竹入勇子
更るまて蚊のたかるとも白紙に文書き終りたくや蚊遣火

○東京　小松悦子
夏の夜や軒端にまれく忍ふ草をくつさぬまてに蚊遣れあくわ火

天

朝顔や昨日の蕾今朝二輪　青森　中津なほ子

地

朝顔やまた井筒へは二三尺　愛知　市橋幾子

人

朝顔や隣に宿れる曉の月　山形　阿部さゐ子

朝顔や夜を持ちながら實に出ろ　廣島　小田信子
朝顔や土用の魚の明日もたず　東京　伊矢野[illegible]子
朝顔の露や月影星の影　熊本　齋藤さ[illegible]子
朝顔に朝寐の癖を直しけり　三重　小島[illegible]子
朝顔や東天白く花紅し　青森　吉田やす子
朝顔や明日咲く花は背戸の垣　群馬　伏島たき子
朝顔の籬あやしき結目哉　東京　大澤[illegible]子
朝顔や垣根つたひて書齋まで　東京　川村[illegible]子
朝顔や近付きになる垣の裏　京都　入田艶子
朝顔や隣りの庭の垣て咲き　東京　松苗雪子
朝顔の日記作るや夏休み　埼玉　森田竹子
朝顔をめでつ話しつ朝茶哉　秋田　芳賀ます子
朝顔や未だ月影は空にあり　青森　田島正子
朝顔や俳人めきし眞柴垣　京都　黒川順子
朝顔や未だ明けぬ夜に咲き初る　廣島　小田八重子
朝顔に呼びかけられし切戸哉　東京　三宅久子
朝顔に日頃の寐坊直りけり　京都　磯谷澤子
朝顔や一鉢ち目立つ店の先き　和歌山　南部種子
朝顔や賤か伏屋のはねつるべ　三重　山ゝ勢乃子
蝶過や垣の朝顔皆咲ふ　三重　莊司種子
朝顔や[illegible]　秋山菊江
朝顔や[illegible]　若山たき子
朝顔や明日[illegible]　南[illegible]
朝顔やせめて[illegible]　宇野[illegible]子
朝顔の咲く[illegible]　藤田あつ子
朝顔と[illegible]　萩原さだ子
朝顔の起[illegible]　泉とく子
船來[illegible]　仲田[illegible]子
明る夜の[illegible]　金[illegible]
朝顔の露[illegible]　向東[illegible]
朝顔や[illegible]　[illegible]
朝顔や朝[illegible]　清水[illegible]子
垣越しや[illegible]　竹入勇子
朝顔や[illegible]　水野[illegible]子
橋詰に[illegible]　中尾千代子

▲投稿諸姉　規定を堅く守られよ

第卅四回作歌募集
題　瀑布
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首に限り葉書に認める事
優等の作は九月五日發行本紙上にて披露すべし

第廿七回短文募集
題　殘暑
選者　編輯局同人
規定　百八十字以下用紙葉書
優等の作は九月五日發行の本紙上にて披露すべし

第十五回俳句募集
題　立秋
選者　編輯局同人
規定　一人一句に限り葉書に認める事
優等の句は九月五日發行の本紙上にて披露すべし

第八回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優等の作は九月五日發行の本紙上にて披露すべし

締切八月二十日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭に有益なる發明品

東京裁縫女學校、和洋裁縫女學校、日本女子大學校裁縫科に於て御好評を博し、御用を蒙りたる

專賣特許　蒸氣こて

本器は蒸氣の力を以つてのすこと故●キリを吹く面倒なく●洋服地絹布縮緬木綿の別なく實に利き目よろしく●少しも地質を損ずる憂ひ無く●あせしみホコリ等は蒸氣と共に發散し消毒の用を辨ずべし●體裁は全體ニッケルにて頗高尚優美●構造最完全にして永久の使用に堪ゆ（家庭用中形金三圓八十錢、携帶用小形金三圓四十錢）（小包料中形廿錢、小形十錢、代金引替十錢増し）●御一報次第御用の有益に不拘御高覽に供す

東京市麴町二丁目　發賣元　虎屋號　千歳商會

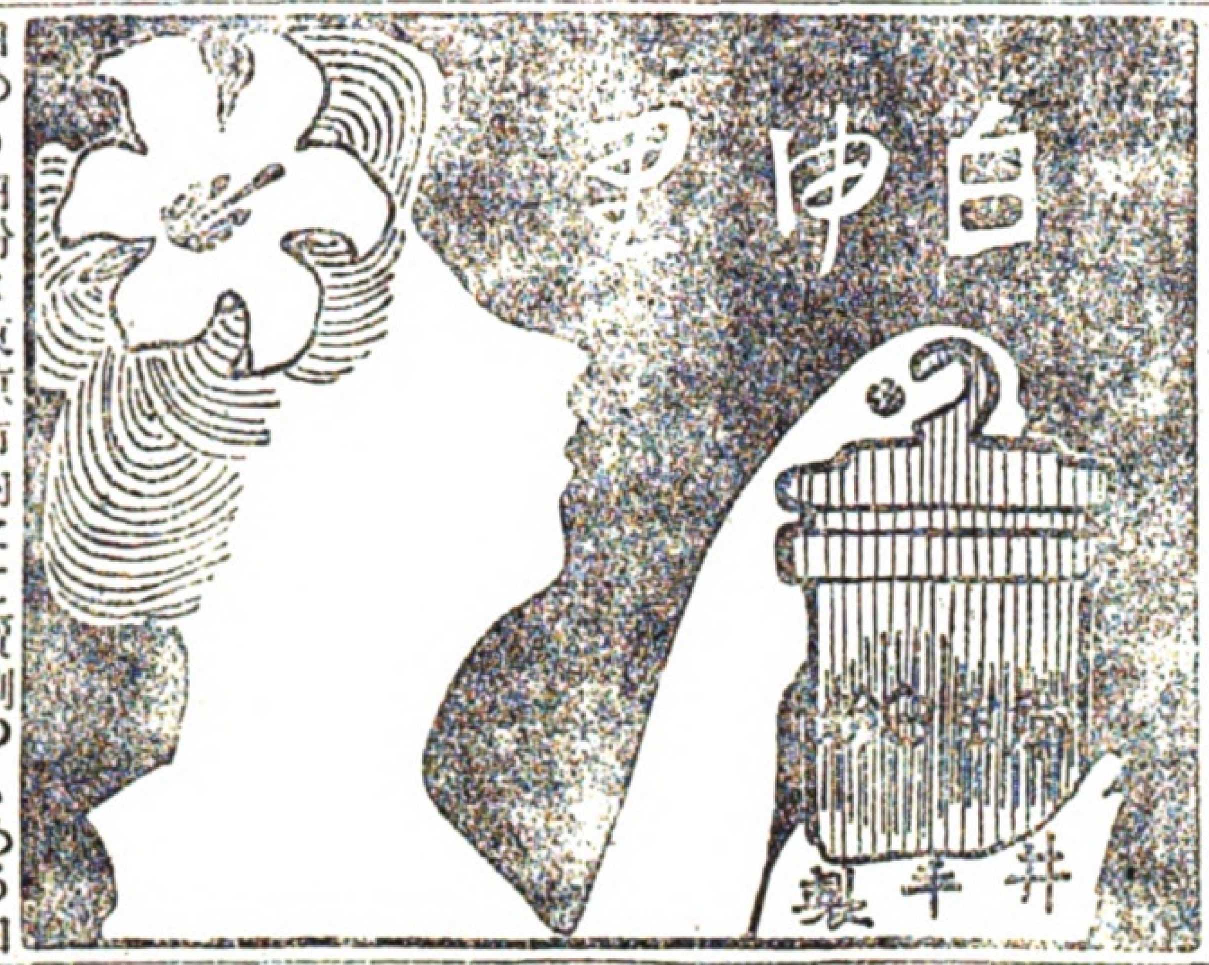
ゲーバ香水

●小瓶廿五錢　●大瓶壹圓

●賣捌所は全國到る所に有り御買上りを乞ふ

●到る所の金物店雜貨店にて販賣いたし候

白ゆり



井平製

白ゆり白粉は東京市内にて賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衞門等の常に愛用せらるゝ品なり

東髪の

最新流行　美術蒔繪櫛　簪　諸小間物　東髪用品　和洋化粧品　香水石鹸

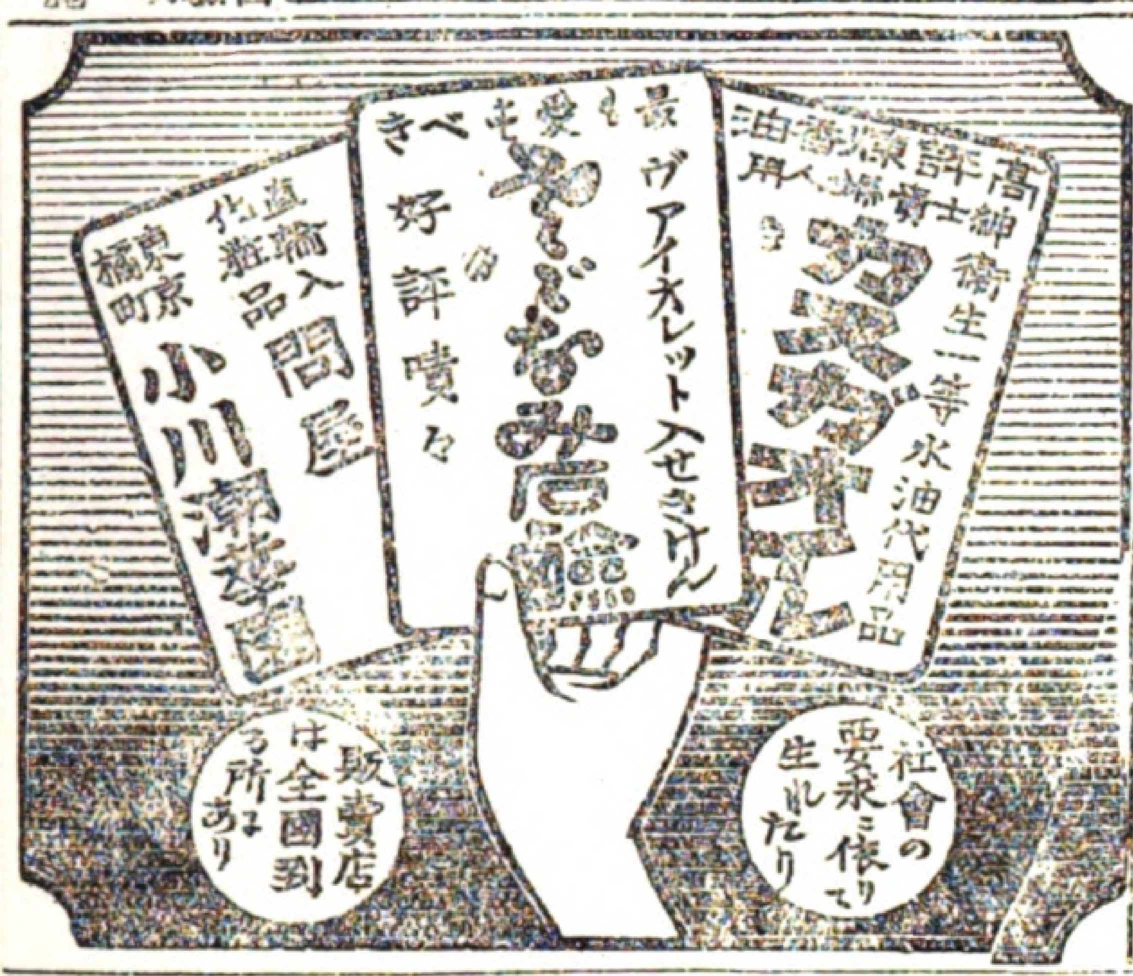
東京日本橋區よし町　電話浪花一四四

專賣特許　英字どめ

東髪の時季

World

東髪田保留中英字留の右に出づるものなく留方の自由にして總ての點に於ても愛用諸孃の賞讃高し



高評　紳士貴婦人用　衛生一等水油代用品　香油

最も愛すべき　ヴァイオレット入せきけん　好評嘖々

直輸入化粧品問屋　東京橋町　小川潮業堂

社會の要求に依りて生れたり

販賣店は全國到る所にあり

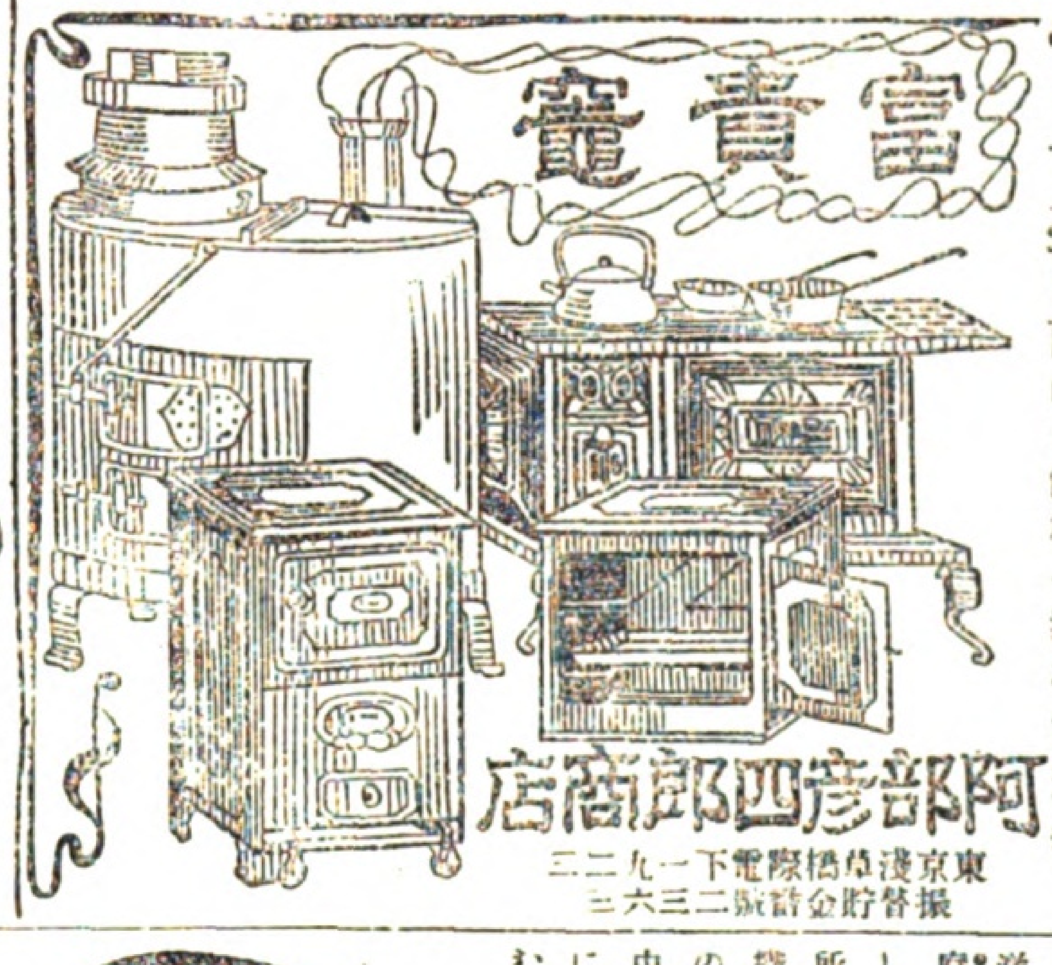
洋食器具類一式

特許輕便料理ストーブ　一名改良チンピは輕便で完全に料理ストーブの効用を爲す　金二圓三十錢

實用新案テンピ　小金四圓五十錢　大金六圓

特許テンピ　銅壺空焚漏り保險

富貴竈　商品目錄御一報次第進呈す



富貴竈

阿部彦四郎商店　東京淺草橋際電話下谷一九二二　振替貯金口座二三三六

煉香油

貴婦人紳士　夏季必要品

大中小

東京市橘町四丁目　丸見屋商店　電話浪花四四八

母のための教育學

群馬縣師範學校長　羽田貞義　新潟縣長岡高女教諭　小澤錦十郎　兩先生合著　全一冊

價五拾錢　郵税六錢

本誌前號廣告中著者小澤錦十郎とせしは錦十郎先生の誤に付き訂正仕候

東京市京橋區南傳馬町二丁目　目黑書店

シンガー裁縫機械會社

北米合衆國紐育市

東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地

大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地

長崎支店　長崎大工町六番地

東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シャツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン專門の裁縫を教授の爲に東京、大阪、横濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を卒業せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン裁縫專門教授（規則書進呈、郵券封入御申込アレ）

東京麴町區有樂町三丁目壹番地　シンガーミシン裁縫女學校

大阪東區北濱一丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に優すミレスの香料を多量に含むが故壹度使用せば其香氣身体は元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至るまで迄うつり香いたし五日間は殿部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

○定價大形廿錢　小形拾錢　熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地　井上太兵衛

●ホワイトミシン使用法　第貳回夏期講習會

▲會場　東京麴町區富士見町壹丁目廿五番地ホワイトミシン裁縫研究會内

▲會員　壹百名限り

▲開期　來ル八月十七日ヨリ全卅一日迄（規則書郵券貳錢）

●ホワイトミシン裁縫研究會

▲會場　仝上

▲修業期間十五回卒業◎毎週日曜午前十時開會

商標　錦

羽おり紐

市内へ御用命ハ葉書一本ニテ何時ニテモ參上致ス

定價表ハ御申越次第呈送仕候

東京よし町　保竹組紐舖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

利益配當公告

當會社は來る九月一日以降第一期契約者へ社員配當金を支拂ひ可申候
右社員配當金は定款の規定に從ひ次年度の保險料へ振替へ申候
社員配當の率は百分の三に有之候

東京市日本橋區新右衛門町
第一生命保險相互會社
電話本局一三七三、一七三七
振替貯金番號一三一

商品目録定價表　御申越次第送呈

意匠斬新　新くし、笄、かんざし　リボン、ヘーアピン、サイドコム

美術小間物商　三ツ井屋
東京市神田區須田町十番地　電話本局二〇七六番
支店（神田神保町東明館内　新橋ぎわ博品館内）

愛國婦人會員に購讀を推薦す

最近世界の思潮を網羅せり

新公論

二十一年第八號目次

●厭世煩悶の救濟策

執筆者
▲磯邊彌一郎　▲南條文雄　▲本多庸一　▲高島平三郎　▲谷本富　▲鈴木券太郎　▲大内青巒　▲三輪田眞佐子　▲井上圓了　▲田川大吉郎　▲留岡幸助　▲中川謙二郎

其他▲論説▲人物評論▲最新思潮▲海外思潮

定價一部郵便税共金拾三錢

發行所　本郷區東片町百十一番地　新公論社

ゴム製
防汗帶
一名　帶下あせよけ

大形六拾錢　中形五拾錢　小形四拾錢
小包料六個迄拾錢（郵券代用壹割増、代金引替十錢増）

此防汗帶（あせよけ）は最良のゴムにて製しあればこれを襦袢の中にまとふときは汗いづるとも着物や帶又は袴下に用ひて汗しみとほること更になし暑中必要の品殊に進物用として尤も妙也いくたび洗ふも損ぜず

販賣者には特に割引す

京都市四條通高倉西入　千葉永昌堂　長電話千九十二番

郵便振替貯金口座貳〇六四番
安全で便利で費用の入らぬ送金法
拂込用紙は到る所の郵便局にあり

第五博覽會三等賞受領
總銅製吾徳風呂改良桶箱風呂各種出來有
銅製改良風呂釜各大小出來有
圖面定價表御入用の節は郵税壹錢御送付を乞ふ

東京日本橋區通油町十九（電話浪花一四六番）
製造發賣元　銅器物問屋　南部鐵瓶販賣　石川商店
代理店　京都柳馬場　春井喜助

商品案内　無代進呈

○銀側兩蓋之部　流行瑞手形
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同惣石卷上向アンクル
價十三圓半　同裏三枚惣石卷上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天武向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行瑞手形
價三十三圓　瑞西國大金側御婦人持
價六十九圓　瑞西大金側中形紳士持
價七十九圓　米國製大金中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋（二三三一）
伊勢伊時計店

最上清酒
暑中御進物用
壜詰清酒　世界長　半打以上化粧箱入　三本はボール箱入

世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり尚殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし

壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通橋てりふり町通り）
發賣元　高橋商店　電話浪花一五六一番

蚊帳・夏ざぶとん　夜具蒲團
諸官省御用
街鐵も外濠線も小川町東明館の前下車を乞
東京神田區表神保町　矢田商店　市内無賃配達
電話本局二千十八番
●品質保險附●正札引なし●縫目なし蚊帳有●日本銀行前勸業協會へ蚊帳出品卸賣致居候

此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば皮膚の自ら滑らかになり其色を白くす

東京牛込　山本玉川堂

帝都唯一受賞袴　小町印學生袴
日本橋區彌生町　卸部　永井本店（電話浪花一八四一番）
神田區南神保町　小賣部　永井支店

めりんす友禪
東京人形町通り

米國新發明　專賣特許
長身器（せいをのばすきかい）

▲十歳以上四十五歳まで効があります、せいを延すのみでありませぬ
▲體育器の大王で室内の運動器械、鴨居椽側などに掛けて使はれます

正價拾圓　小包料四拾錢
詳細は郵券二錢送られよ

▲御婦人には最上の運動器械て、携帶輕便なる避暑の好伴侶てす
▲神經衰弱を治し猫脊を直し、希臘女神の如く美なる姿勢となります

諸大醫保證
東京牛込通寺町九番地　米國カーチレージ商會支店

消化新藥

醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く
胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄錄
高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり
錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと乞御指定。
實驗報告集は無代進呈

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舖
本舖　松澤常吉（電話本局四百四拾五番）

新もやう　ゆかた地　玉善染
高尚優美新形案出品披露
美術浴衣地本舖　玉川屋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等香油 チエリーオイル

紳士貴婦人令孃用

本品は無色透明さら〳〵として水の如く馥郁たる香氣は恰も香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大に流行せる彼の束髪用として非常に高評を博しつゝあり

定價八十五錢、四十五錢　廿五錢(送料各十錢)

賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

東京日本橋區本町二丁目　發賣元　高橋初次郎　特電四一三番

女俳優マダム　川上貞奴　榊園みやこ

巴を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料洗粉

ヤツコ

●定價一鑵廿錢全國送貨四錢三鑵美麗函入五十五錢同送貨十錢(此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ)

カール

毛を良くしくせと縮毛を直す束髪島田丸まげとも髪形をよくす

●定價七袋分入廿二錢全國送貨四錢　三袋入十二錢一袋入五錢同送貨二錢

東京神田區御成道田代町九番地　ヤツコカール日本一手發賣元　地球堂　田中丹治

●ヤツコ。カールとも全國有名小間物店賣藥店に賣捌あり若し無くば代價へ送貨を添へ發賣元へ注文すれば急送す

洋織物 裁縫物　毛布 敷物類

何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

TRADE MARK　東京湯島切通下　ツカダヤ　電下一三一四

東京市日本橋區小舟町三丁目　株式會社 第三銀行　電話浪花四一二 浪花四五一一番

預金利子

定期預金 六ヶ月以上 年五分

當座預金 百圓に付日歩 八厘

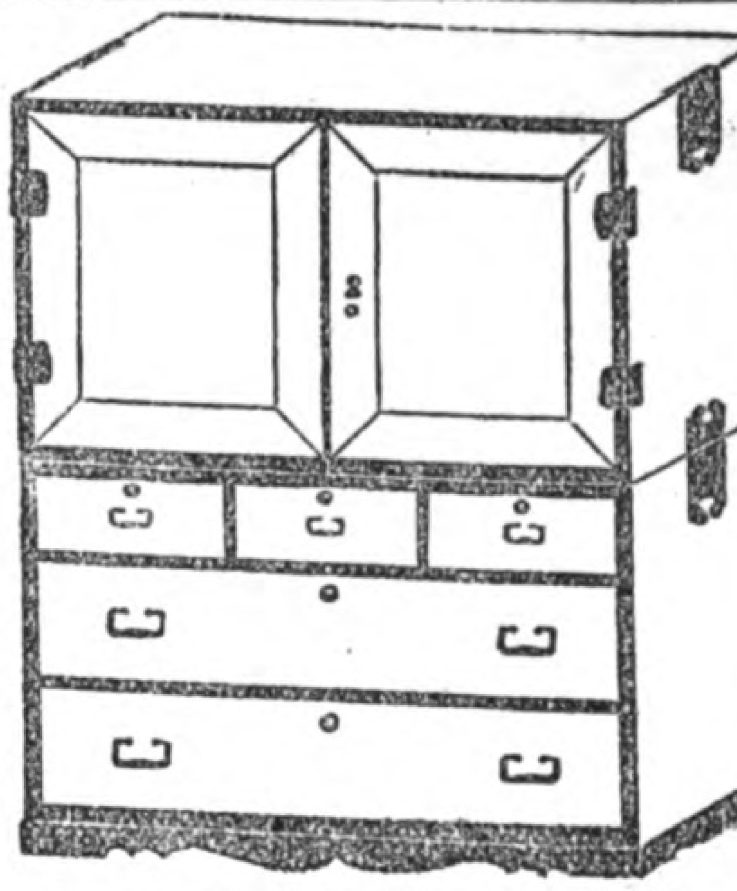
別口當座 同日歩 壹錢

全國送金無手数料

其他銀行一般の業務敏速便宜取扱可申候

高等簞笥長持類一式

數代の老舗正札附販賣



蟲害豫除實施簞笥目録進呈

御蟲干に際し簞笥の具合等惡しき場合には御申越次第店員御伺の上手入可仕候

東京日本橋區小傳馬町一丁目　長谷川簞笥店　電話浪花千四百三十五番

最上醬油　キハク印　香

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號(キハク)又(ハク)

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

◎會員大募集＝目下入會の最好機なり

新學期開始

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小説を毎號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道専門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として會員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ヶ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

大日本淑女學會

高等女學校程度講義錄發行

批評一斑

講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也 ▲中央新聞評

米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易説明懇篤を盡くせり ▲毎日新聞評

高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり ▲二六新聞評

講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり ▲日々新聞評

講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一頭地を拓き得可し ▲都新聞評

講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也 ▲報知新聞評

上掲の批評を御覧にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼

端書にて申込あれば直に郵送す可し

◉東京神田南甲賀町　大日本淑女學會　電話本局三千四番

補血良劑

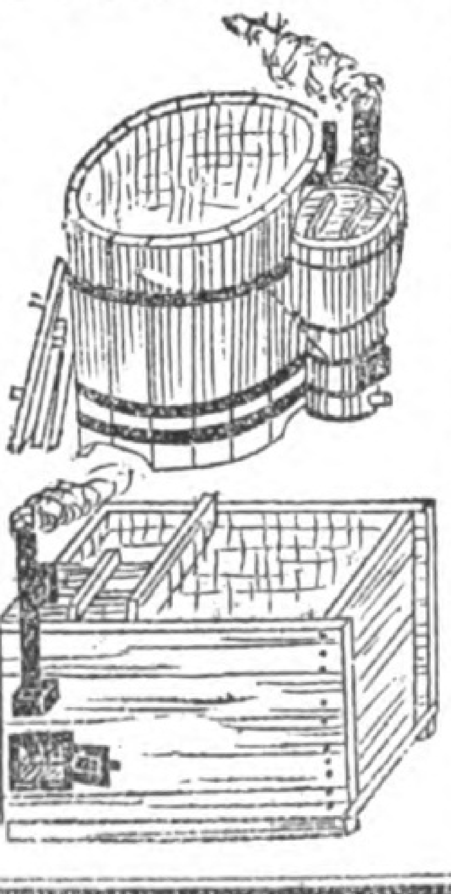
ワムポール無味肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目　合名會社島久商店　(電話本局特四九一　電話本局三〇一八)

◉第五回博覽會賜褒賞特許

同式据風呂機罐



◎湯屋温泉用釜◎料理店理髪店用湯風呂◎豆腐箱

◉定價表御入用の方は郵券二錢送付あれ

製造　日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　名和商店　電話浪花千百七十七番

販賣元　神田區和泉橋通松永町十八番地　名和支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

口繪
◎山階宮妃殿下の最近御尊影
◎名家の新婚寫眞（珍品三組）
◎三宅花圃女史の家庭と筆蹟
◎蒙古女學生の書と河原女史
◎彩色石版　中澤弘光
◎彩色繪手本　跡見花蹊　中澤弘光

八月三日發行　第八號

一冊拾五錢郵税一錢五厘半年分郵税共九拾錢一年壹圓七拾五錢

婦人の日常生活法　村井弦齋

▲何の運動が婦人に適するか
▲散歩は如何にすべきか
▲精神の運動は如何にすべきか
▲足の運動は如何にすべきか
▲手の運動は如何にすべきか
▲接客は如何にすべきか
▲交際は如何にすべきか
▲言語は如何に遣ふべきか
▲笑ひ方は如何にすべきか
▲訪問は如何にすべきか
▲土産物は如何にすべきか
▲お八つは如何にすべきか
▲氷は如何に使ふべきか

日本婦人必讀

の大文字これを讀まぬ人は大不幸也

◉弦齋夫人の料理談
△冷し珈琲は如何に造るか
△氷箱は如何に使ふか
△桃は如何に料理するか
△王子の淡雪とは何か
△蕃茄子は如何に料理するか
△赤茄子は如何に料理するか
◉アイスクイム製法（嘉恰）
◉暑中休暇と子供　後閑菊野
◉小見汗もの豫防法治療法　ドクトル加藤照麿
◉暑中休暇と子供　大村仁太郎
◉夏の我家……有島幸子
◉家庭ラムネ製法……鶴田博士
◉海水浴と溫泉……伊庭學士
◉三宅花圃女史の面影　樂石生
◉妊娠中の心得　產婆西尾鏡子
◉婦人は如何に寫眞を撮るべきか……石塚月亭
△天氣は何時…△衣服は何…△色合は何…△向きは如何

東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社　郵便振替貯金口座參武六番　全國賣捌書店

佛國パリー直輸入

ピンク白粉

芳香頗ル高評

輸入元　倉田山海堂
東京市日本橋區小傳馬上町

最上醤油元祖

下總銚子町
醸造元　濱口儀兵衞
荷扱所　濱口支店
東京北新堀七番地（電話浪花二五九四）

○宮内省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の醸造高也

大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇〇五）
濱口出張店

暑中御進物用

◉ハンカチーフ　絹綿麻各箱入
◉クレープシヤツ
◉婦人小兒用帽子
◉上衣キヤンバース
◉洋傘手袋沓下類
◉敷布用タヲル切地
◉精巧舶來人形各種
◉洋花リボンレース
◉旅行用化粧道具
◉外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與　三枝小賣店
電話新橋三九二七番

從四位淺田宗伯先生直傳　淺田飴

たんせきに
あさだ
淺田飴
すきはら
空腹に
めし

良藥にして口に甘し

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田銀冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

カメリヤ洗粉

カメリヤは時代の要求により生れたる最新最良の洗粉なり香氣爽快にして色を白くし皮膚を艶麗ならしむ

定價
瓶入　十二錢
袋入　五錢
小袋　三錢

發賣元
小林富次郎

日本横濱市
金丸銃砲店
振替貯金口座四七二番加入
正價表及振替拂込紙郵呈

幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新にて精巧完全なるもの各新式各種類に拂り漏れなく取揃へ置候
正價表は御一報次第郵呈仕候
振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても横濱本店にて直買取同一の便法あり
詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人藥王　中將湯（ちゆうじやうとう）

子宮病（しきうびやう）　血の道（ちのみち）
さん前（ぜん）　產後（さんご）
のぼせ　頭痛（づつう）
腰足冷込（こしあしひえこみ）
下腹痛み（したはらいたみ）
月經不順（げつけいふじゆん）
白血（しろち）　赤が血（あかがち）
其他（そのた）婦人病（ふじんのやまい）
一切（いつさい）の特効藥（とくかうやく）

定價　三日分二十錢（郵稅四錢）十五日分八十錢（郵稅五錢）一月分一圓廿五錢

東京日本橋區通四丁目
本舖　津村順天堂
文店　大阪堺筋大寶寺町南入

各國帝室及ヒ王家御用

ネッスレスミルクフウド

歐洲諸國及本邦名醫ノ讃辭ヲ辱フセル者ナリ、小兒、病者及ヒ平素不消化ニ苦ム者ニ適當ナル最良滋養食物ナリ。
最モ盛ニ藥舖洋酒食料品店ニ於テ販賣ス

●色白く艶をだす
松澤　ホーサン石鹸　（大形一個廿錢　小形一個十錢）
●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉

銷夏避暑の好伴侶

藤澤石原　脚本悲劇　オルレアンの少女　新刊　價四十錢　郵稅八錢
重雄　オルガン　ピアノ手ほどき　價三十錢　郵稅四錢
尾崎紅葉　草もみぢ　價五十錢　郵稅十錢
原抱一庵　小說　巴黎の秘密　價五十錢　郵稅十錢
橋本先生　衛生一夕話　價卅五錢　郵稅六錢
持地學士　經濟一夕話　價卅錢　郵稅五錢
横井玉子　家庭料理法　價四十五錢　郵稅八錢
下田歌子　家政學講義　價四十五錢　郵稅八錢
坪內博士　通俗倫理談　一圓廿錢　小包十錢
藤井學士　俗諺論　價九十錢　小包十錢
世界觀大　露西亞　價五十錢　郵稅八錢
世界觀大　清及韓　價五十錢　郵稅八錢

袖珍名著文庫

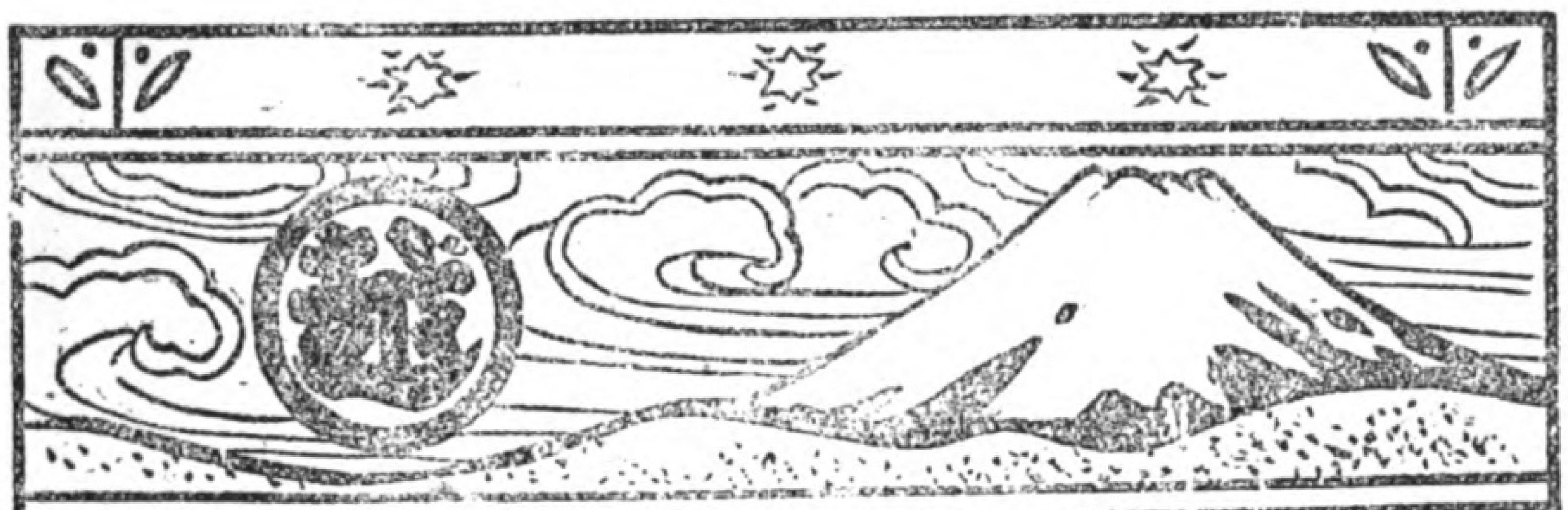
野口米二郎先生著　From the Eastren Sea.　定價卅五錢　郵稅四錢
American Leters of A Japanese Parlor Maid. 價七十錢　郵稅八錢
The American Diary of A Japanese Girl.　價七十五錢　郵稅八錢

芳賀矢一先生校訂
新刊　慶長見聞集　（名著文庫第廿五篇）　口繪　江戶古圖

慶長元和は江戶の勃興期也、家康新勝の力を以て武基を定め文運を佈く、學問に美術に演藝に各種太平の英華一夜に競發せんとす豈我が日本帝國新興の今日に酷似せずや、慶長見聞集は活眼を以て讀まば宛然明治見聞記也、今得難き寫本より飜刻して大方に紹介す、描寫亦縱横不羈、遠く隨筆の群を拔く珍書中の珍書といふべし、（正價廿錢上製廿八錢郵稅五錢）

既刊目次
近江縣物語▲狂言二十番▲山家集▲風流志道軒傳▲脚本春花
五人力▲俳諧水滸傳▲よものあか▲國姓爺合戰▲謠曲二十番
世間娘氣質▲日本永代藏▲日本新永代藏▲萬載集才藏集
▲花月草紙▲鳩翁道話▲代繇手摺昔木偶▲夢想兵衞胡蝶物語
▲假名手本忠臣藏……以上廿四冊何れも好評
同上後篇
▲芭蕉翁繪詞傳附句集▲假名文章娘節用▲今昔物語選▲近松浄瑠璃三種▲

發兌　東京神田　合資會社　富山房
（郵便振替貯金加入五〇一番）



季節向き新柄物漏れなく取揃へ店内一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候
地方よりの御注文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御届け可申上候尚ほ註文御案內書は御一報次第呈上可仕候

三越吳服店
東京日本橋區駿河町

東京市麹町區錢瓶町(常盤橋内)
日本興業銀行
電話本局(三、三〇〇番 四一一番 (特)三三七番 一〇二二番)
一定期預金　年五分
一當座預金　日歩七厘
一特別當座預金　日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社　森村銀行
電話(特)本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩　八厘
特別當座預金 同日歩　壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋(三三〇〇番 一五三〇番 三一九三番)
同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花(一九〇一番 三二七四番 三五〇八番)
一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

スコット乳菓
咽喉諸症肺炎其他貧血病ニ着大ノ効験アり早ク試賜ヘ
說明書ハ橫濱郵便局私書函第五十八號スコット乳菓部へ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◉品質佳良の肉類廉價に販賣候
◉配達は迅速に且つ正確に致候
◉滋養と風味の西洋料理調製候
◉西洋料理出前は格別相働き候
◉米店は精撰の白米廉價販賣候
◉御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本郷區駒込東片町五番地　電話下谷二二七一　西川支店
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　西川洋食店
小石川表町十八番地　米穀商　西川嘉門

袴乃親王

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店　電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店　電話下谷一四二五番
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
神田區小川町　美濃磯神田支店
深川高ばし際　美濃磯支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

暑中御愛敬として八月二十日迄景品進呈候
夏模様 花草水 斬新染　牛ゑり帯揚類　浴衣地片側帯
○夏レースショール○裾模様け出し○帛紗
○夏ネキタイ○しぼり染兵児帯○伊達まき
○長襦袢○襦袢袖○下締め○しごき○手柄
○有効受賞まげ入○高等洗粉チエリー香入
○内國獨特
新橋竹川町十二　電新二〇二七　本店　ゑり治
神田表神保町壹　電話本九五二　支店　ゑり治
新橋際博品館内階下　ゑり治出張店

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
婦人科產科榊病院
東京麹町三番町卅三(電話番町三九下)

内科小兒科 特に呼吸器病
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

產科婦人科　楠田病院
東京日本橋區濱町三丁目七番地

●水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八百〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

◉婦人科◉小兒科專門
午前宅診　午前往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

產科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次 歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇
東京病院

内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院
神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)

東京神田錦町參丁目 電本七一五
診察午前午後 入院隨時
山口眼科病院
院長 醫學士 山口秀高

内科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年八月五日發行（毎月五日二十日二回）

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効てす

定價　拾貳号入 金拾五錢　六号入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七二二
英國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會

陸軍省御用

銀杯 木杯
定價表
御入用ノ節ハ御送附可仕候
東京市日本橋區室町貳丁目
漆器蒔繪商 木屋本店 林九兵衛
電話本局 特一七〇一 九九七

日本家庭辭書

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 元良勇次郎先生
文學博士 井上圓了先生
學習院女學部長 下田歌子先生 序
西山悊治編

家庭問題は今に殘されたる社會問題として又戰捷後必然に社會の要求する時代急需の聲に應ぜんとて世に出づる家庭向の著書敢て尠きにあらず尠からずと雖も惜むべし一時的際物の零片を以て充たさる即ち編者此に周到の用意多大の苦心抱負を以て本書を編纂せられたれば家庭には此れに依て光明に浴し新しき福音に接するもの尠からざるを信ず幸に世の流行的一夜作の駄編と同一視する勿れ本書の內容は

家庭組織	結婚制度	法律
道德	交際	禮式
宗教	衛生	家具
經濟	行事	料理
裁縫	洗濯	汚點拔
園藝	養畜	生花
茶道	音樂	遊戲

等に就て最も家庭に必要なる粹を拔きて千餘項を選擇し五十音順に配列し說明懇切苟くも事家庭に關して細大漏さず以て忠實なる家庭の顧問たるを期せり即ち本書を家庭必備の寶典として一般の家庭に獻じ進物殊に結婚出產の贈物として薦め又教育に熱心なる各學校教育家及び學生諸君の備品として推す、幸に此の好書を逸せず購讀の榮を賜はらんことを

購讀者に注意 從來本書の下題に類似の者有之購求者は特に編者西山悊治發行所弘道館に注意

▲家庭末代の寶典▲家庭の小圖書館

口繪挿畫は中村不折書伯揮毫の家庭團欒の三色版
舶來上等紙摺　四六判洋裝 頗ル美本全一冊
正價金壹圓參拾錢 郵稅十五錢
（內容見本御入用は往復端書の申込にて送る）

壹萬部限り特價九拾錢 小包料拾五錢
［滿數後斷然正價に復す］

女子の修養

學習院女學部長下田歌子先生著

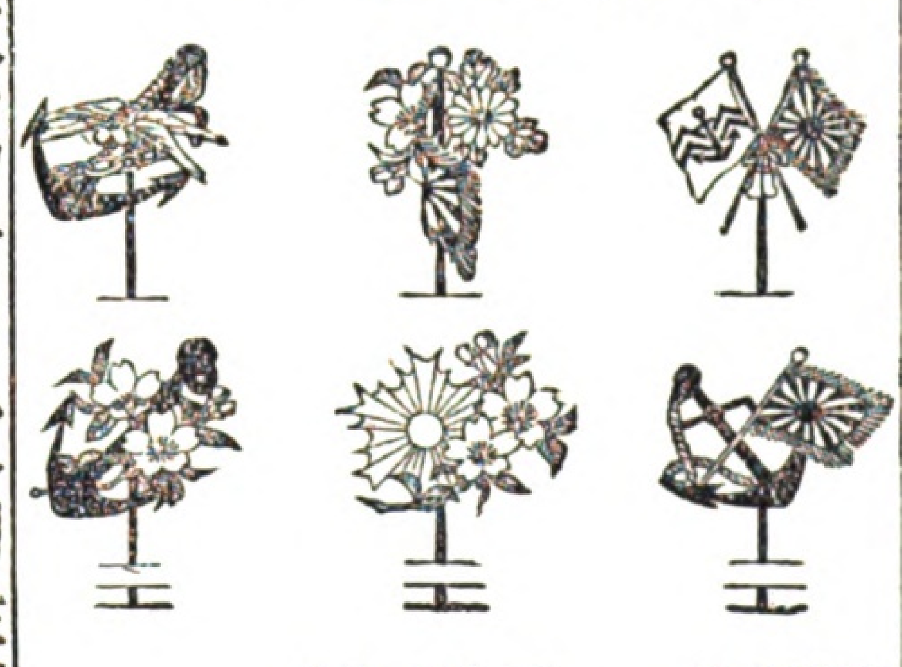
◉廿世紀女子教育の生粹◉新家庭經營整理の實鑑

菊判形總クロース 彩色意匠數度ノ色箔頗ル美本全一冊
正價金七十錢
郵稅金八錢

女子高等師範學校內フレーベル會編 婦人と小供 毎月一回五日發行 一冊十錢 六冊郵稅共六十錢 十二冊前金一圓二十錢

發行所 東京京橋區南大工町一番地 弘道館（電話本局二八四〇番）

戰勝紀念ピン



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價 純銀製 一個 金三十五錢以上
餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝しあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達 玉寶堂
東京市下谷區池の端仲町
電話下谷 特九六五番 一二四四番

日本第一の大勸業場（本場の特色）

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角 帝國博品館
電話新橋（一六五二 二三六一）

斬新材料
舶來薄絹シホン
ホワイト リープス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候

各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區橫山町一丁目十六番地
天野卯兵衛 電話（長）浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一畳社
京橋區南鍋町 秀逸堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麴町 愛國婦人發行所
印刷所 秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN